

## 昭和 49 年 12 月 27 日 (金)

入山 (4 年生)

4 年 15th H.H. 萩生田 弘

## 昭和 49 年 12 月 31 日 (火)

ああ、何という怠慢！赤勝て 白勝て 紅白歌合戦。  
おお 何という冬！ オヨヨ大統領は何処

## 昭和 50 年 1 月 2 日 (木)

<下山 (H.H.) スキー講習会 12.27 より 1 週間>

スキー講習会の慌ただしい中で、このノートも書かれる機会が少ないようです。ペースがだんだん遅くなってきました。27 日に入って以来、早 1 週間、本日をもって下山することに致します。私には珍しく、小屋に来て山に登りました。リフト券も大して使わず、金の無い中、ホッといたします。久しぶりに青空も見え、霧氷がとてもきれいです。今日はスキーもせずに、景色を眺めながら、髪をとかしたりして、とても優雅な気分なのです。4 年間のワンゲル生活の大半をここで過ごした私と致しましては、非常に満足なのであります。最後に一言、現役の皆様、末永く なえな小屋 を大事にしてください。

4 年 15th H.H. 萩生田 弘

冬山訓練も無事終わりました。今年度は去年度と比べて雪も少なく、三田原山に登頂出来ました。登頂当日だけガスに巻かれて、その他の日は快晴。とにかく終わりました。

\*\*ごくろうさん、みんな ごくろうさん

3 年 16th H.U. 植松 弘

## 昭和 50 年 1 月 3 日 (金)

<下山 (稗田) スキー、他には誰も居ない>

11:20

丁度 1 年振りです。又、覗いてみましたが、又又空っぽです。残念！相変わらず活用されている様子で結構です。室内の汚い事も相変わらずで、これも又結構。

遠方に勤めた為、減多に来られなくなり、顔を知っている古い連中も居なくなってしまい、だんだんに小屋から遠ざかってしまいそうですが、こうして、1 年に 1 回だけでも、覗いてみると ” まだ、すぐそこに

小屋があるのだ！” という実感が湧くのですが…

こここのところ、毎年 SKI だけは一人前に通っているのですが、お山の方は減多に行かず、実力的に見てもハイキング位が適当ではないかと思っておりますゆえ、もう駄目なのであります。他の OB 連はと見ると、いろいろで、それぞれやっているようですが、やはり関東・近畿地方の人がメインの様です。と見ると、まあまあ線かと納得したりして…エー。

今年はスキーが大流行らしく、ゲレンデは超々満員のため、せっかく買ってきたリフト券も消化しきれそうもありません。しかし、小屋の中はカラ！誰にもあげることが出来ないなのであります。(残念でした。) 従ってケンメイに並んで、必死に try してみるなのであります。従って これで終わり。では又 1 年間 さようなら。

OB 11 期 稗田 (ヒダ) 省三

追) OB の人は来ていませんねエ〜。何やっているのでしょかね？

## 昭和 50 年 1 月 4 日 (土)

10:30

中島さんもお帰りにになりました。何かが終わって、何かを始める時期が来ました。この 1 年間は、非常に早く感じられました。執行部をとり、どことなく頼りない仲間と一緒に、でもそれなりに真面目に考えてきた積もりだった。しかし、それも我々の考えとは裏腹に 批判を ” 突き上げ” ” 追求” という形で受けてしまった。苦しかった。強い態度に出れば出られたのだと言ってみたい気もする。あれ以来、二年生とはどことなく馴染めなくなってしまった。言いたいことも言わずに、そして やりたい事もやれずに、唯ただ我慢の連続に明け暮れ、一月になればもう、知ったこっちゃない一全て自分自身の為に と理屈付けて過ごしてきた。スキー講習会も、少人数ながらも終わり、冬山訓練も終わった。そして大学生活の全んどが終わった。解放された今、ノビノビとした気持ちになってもいいはずなのに、どことなく淋しい心です。

3 年 16th H.U. 植松 弘

## 昭和 50 年 1 月 5 日 (日)

<下山 (牛窪・他 3 名) 在留ゼロ>

今から帰ります。今年の正月は入小屋も少なく、人が減る一方の淋しい正月でした。今や私も、OB とはいえ、とにかくもう、あんまり山小屋にも来なくなるのだろうかと思うのです。まあ、それが当たり前かもしれないのだが、何やかやと心が動き、何もやらずにさ

ようなら。

4年 15th Sho Ushik 牛窪肖

今、最後に残った四人が帰ります。これで小屋は空っぽ。この冬は 最初から最後まで小屋に居ました。次に来るのは三月。それまで さようなら。

2年 17th [に] 蜷川欽也

## 昭和 50 年 1 月 18 日 (土)

今シーズン 2 回目のスキーは、妙高国際で滑るべく、山小屋に来ました。14 期の鈴木道夫です。アア、やっぱり誰も居ないのかと、岡田さんの所で、いくぶん落胆。雪が深く、ゲレンデから小屋迄ラッセルになった。カーテンが入ったんだな。それにガスランプ(?)も、ワンゲルも変わってゆきますね。ほんの小さな事ででも変化を感じ取ってしまうのは、やはり OB になった為なのかなあ。今夜はハイライトとハイニッカとカップヌードルでいくのだ。山小屋はいいなあ。何というのか…

ウィスキーをやりながら書こう。小屋は今、本当に静かだ。何年か前の夏や正月、足の踏み場もない位に混んでいた小屋、その隅で白け気味に座っていた自分を思い出す。

さて、山小屋日記に限らず書くという作業は、多くは自分を語ることに繋がっていくと思う。小説家が書くのもそうだ。とりわけ私小説など。彼等は何故書くのか。有名になるとか、金を得るとというのが最終的目標であるとは思えない。おそらく書かずにはいられない、心の内からわき上がる叫びにも似た、衝動によるのだろう。その叫びの内容とは、一体何なんだろうか。

俺がこうして書いているのも、それと相通ずるものがある。もちろん自慰的、マスタベーション的なものもある。どだい、独りで雪の山小屋にやって来る行為自体がそうだ。しかしやはり書くようにし向ける何かの心の内に在る。友人や、少し気になる女の子に手紙を書いて送るのも そうだなあ。「淋しいから」とも言い切れない何かがある。

74.3 に工学部の安全工学を卒業して、現在は直江津で暮らしている。言ってみれば大学での高級(?)出稼者だ。化学技術者、それが社会的な分類によると 俺のおさまるところ。一年間、かなり頑張って どうやら化工計算 (実際のプラントの化工計算は、データ不十分で学校の例題のように、簡単にはいかぬ) も一応こなせるようになった。あと一、2年で化工はマスター出来るだろう。

現在の俺の状況を述べた。

さっき、女の子の話が出たので、面白いからそれを書いていこう。幼稚園くらいから、普通、男というのはカワイイ女の子に関心を抱き始めるし、中学くらいに

なると、ガールフレンド girlf… (実に英語とは縁遠くなってしまった。情けない) を持つ男も、何人かは居る。俺もカワイイ女の子が居たらいいなあ、単純にあこがれの気持はあったな。高校もしかり。大学に入ってもそうだった。ところが、ワンゲルの山というものの、山での生活、それは女の子と同じくらいに楽しかった。もちろん、いつだって自分のことを判ってくれる女の子が側に居てくれたらと、思わないときも無かったが…。

今社会に出て、まもなく 24 才 (あと 3ヶ月) になろうとする俺の目からすると、そんな頃が実に懐かしい。無邪気だったと思う。いわば、その頃は少年でしかなかった。少しばかり学校の成績が良かったので、下らぬ優越感も持っていて、つまり、自分に意味のない自信を持っていたんだ。あの頃の俺と良く似た後輩は多いと思う。しかし、女の子が居たとして、それがどうだと言うのか。デートしたり、おしゃべりしたり、お茶を飲んだり、etc その一時は楽しいかも知れないが、別れてみて「彼女と会っていても、何も無かったなあ」と、そう思うだろう。はっきり言おう。女の子と会っても、相手に伝えるべき自分というものが無いのだ。俺は 女の子を持っている男 (いわゆる モデルタイプの男というか) ではなかったが、そんなことを恥たとも、残念だったとも思っていない。何故って、女の子に限らず、他の人に伝えるべき自分が無かったのだから、その頃は、

女の子に伝えるべき”自分”とは、一体何なのか。それを書いていこう。”自我”それに目覚めることから始まる。即ち、自分を冷静に眺めてみる。自分とは一体誰であるのか。何をしているのか。何をしたいと思っているのか。具体的に言った方が良いだろう。例えば、学生である者ならば、何故 自分は今の専門 (ex. 化工、安全工学、心理学、家政…) を選んだのか。どだい、何の為に大学に入ったのか。社会に出て、それら学んだことをどのように活かしていくのか。そういったことを突き詰めて考えてみることだ。

すると 答えはこうなる。「ただ、大学へは行くものだと思っていた。専門を決定した大きな動機はない。卒業後のことなど、まだ考えてみた事もない。」 ということだ。いいのか?! やはり、正常ではないと思う。

ワンゲルは確かに楽しい。多くの山を登って、いろんな楽しい思い出が増えていく。しかし、それらが卒業後の人生、社会人となった日々と、どのように係わっていくのか。何かの基盤となりうるのか?ただ、山を登るだけでは、何の基盤も与えてはくれないだろう。解く Key は、ワンゲルの目標 (ex. 活動方針) や、それを考えていくプロセスにあるだろう。

キチンキチンと講義に出たり、試験が近づけば勉強もけっこうやる。しかし、そういう日常がどうも楽しく

ない。「俺は生きてるな」という実感が無い。何故なのだろう。要するに、自律的に生きていないからだ。毎日の目的が曖昧なのだ。

人間は正直なもので、面白くないことはやりたがらないし、長続きしない。例えば読書。文学部卒のお嬢様も、主婦専業とあいなれば、読むといたら週刊平凡、良くて主婦の友、女子大生の頃は口を尖らせて、サルトルがどうの、カミュがどうして…とやっていた子が、このていたらく。これは結局 学生時代 本が素晴らしく、心から思っ読んでいたからではないのだ。ただただ文学部にたまたま入ってしまったからであり、外国の小説などを日常的に話し合うことに、自尊心がくすぐられていたからに過ぎない。要するに、その女性と文学とは本質的に咬みあっていなかった。その女性にとって、生きることと文学とは無縁であった。思うに、大学四年間、この女の人は無駄をしていたなあ。(人生を長いものだと考えると、無駄があってもいいと思う。無駄のない人生なんておよそツマラヌ。今は そんな気持 75.8.9 鈴木記)

工学部生のことを考えてみよう。ごく限られた専門をいくら勉強しても、心の平安は得られない。人としての見方、考え方、生きていく論理(人は誰でも、生きていく上でそれなりの論理や思想を、それと気付かずにも、持っている)の支えは、専門の勉強からは、殆ど得られない。

例えば、卒業して技術者になる人も居るだろう。技術者として当然、技術的能力は要求される。それは、学校での勉強と入社してからの努力で、対応してゆける。一方、技術者は、その存在自体 社会的なものだ。一般作業員の殆どは技術者への道を与えられていない。彼等は複雑な気持で技術者を眺めている。水俣の如く、水銀を垂れ流し続けていたことは、技術者なら充分に知っていた筈だし、その及ぼす影響も見当ついたのである。

結論を急ごう。

社会的存在としての自分に気付くことだ。そうすれば、安穩と山登りだけしていたり、その為のみにズルズルと卒業を延ばしたりしてはいられない筈だ。講義に出る事のみで、安心してはいられないはずだ。自ら努力して本を読んだり、仲間と話し合ったりすべきだ。おそらく、自然と、止むに止まれぬ心で そういう方向へ動いていくはずだ。何故なら、己と本質的に関わりのある事だからだ。

俺が読書会をやり始めたのもそれだ。ここで工学部の人に本を紹介しておく。

1. 「日本の技術者」 星野芳郎編 けい草書房
2. 「コンビナートの労働と社会」中岡哲郎 平凡社
3. 「工場の哲学」 中岡哲郎 平凡社

1. は特に読みやすく、且つ、読み応えがあった。女の子の話から、ずいぶんと発展してしまった。再び、

女の子のたのしい楽しに戻ろう。

男というのは、以上書いてきたとおり、これ程に真面目なのである。又、真面目にならざるを得ない。というのは、所詮男は、長い一生を、己のみを頼りに生きて行かねばならぬからだ。強い論理に支えられねば、長く険しい一生を歩み通す事は困難な筈だ。

ところが女の子はモロイ。結婚は女にとっては終着駅であるらしいが、男は違う。女は結婚というシェルターへ入り込める。それ故に、女の子は絶えずモロサがつきまとう。

”女の子に伝えるべき自分”が、やっとうにか掴めたと思ったとき、伝えるに値する女の子が居ないように思えた。「いない」から失望するのではなく、「いる」ように教育していく事だろう。僭越な言い方ではあるが。(極めて僭越だナ。1976.12.4 鈴木記)

女の子の話をしながらも、どうもマトモな話になってしまう。おもしろくないな。

女の子は、やっぱりカワユイ。男は、どうしてこうもゴツク出来ているのか。顔にはザラザラ、ヒゲが出て、手はでっかいばかりで。足にはムジャムジャ毛があつて(無い人も居るかな?)。ところが女の子は だ。すべすべした肌を見よ。丸みを帯びたアソコ(わかるねえ)と、ムックリしたあれとあれ(モチ、了解できるね)だ。いち髪が美しく、あの香りを想起せよ。香水が如き、人工のもの何と劣ることか。それに小さな、ふっくらした手、細い指 etc. もちろん、例外もあるが。例外の女の子にだって、女の子にしか無い色々な長所、いや、少なくとも ひとつは長所(特徴と言うべきか)はある。少し落とすすぎかな?

それ程に神(もし存在するなら)は女性を丁寧に作り給うたのに、精神の鍛えられていない女の子程惨めな存在はない。外見が美しいが故に、内面の劣性(勢)ぶりが余計に見えてしまう。要するにだなあ。ガキなのだよ。自分を特別だと思っているんじゃないかな。結局は、タダの女であることを認めるべきであり、全く不十分な人間であることを認めるべきなのだ。(勿論、そういう俺は、俺が今まで如何に惨めな存在であったかを認めるし、現在もまだまだ至らぬ人間だと思っている。だからこそ、こんな長い文章を書き綴り、誰が連帯する仲間、俺を向上させてくれるような友を求めているのだ)

それにしても女の子はカワユイ。これだけは確かだし、男は結局それから、そういうものから自由になれない。それ故種族は滅びない。全く、神は偉大であるよ。

もうそろそろ終わりにしよう。

俺は幸福であると思っている。

1. 俺が川崎の実家へ帰ると、必ず電話をかけてくる人が居る。それは…ツジャツジャ〜。カワユイ女の子、ではなくて、むくつけき男の子、加納である。大学を出て早や1年近く、直江津という遠隔地に居る俺の状

況からして、大学にいる男から、そういう tel があるというのは、素晴らしいことだ。特に、女の子ではなく、男からの tel であることに、俺は感激する。

2. その加納から先日、ガリ版刷りで 30 ページを越す「技術論研究会」の機関紙をもらった。他にも本を貸して貰った。

3. 大学の研究室の仲間が、わざわざ訪ねてくれて、去年の暮れは彼等の運転してきた車で一緒に帰った。

4. 良い後輩を持っている。ex.岩船・中野・三好・榎本・萩生田

以上、女にはやはり（というべきか）全く恵まれぬ私ではあるが、男に良い友を持ち、幸せである。「男の友こそ、何物にも代え難い宝である。」 誰あろう、鈴木道夫の言葉。

チョット待てよ。これでは俺が全く女にモテナイように聞こえるではないか。実を言うとね、無いわけでも無くてね、A子はカワイイけどまだ幼いし、B子は人として立派であるが…、C子はオモシロイけど何か足りず…

結論。広義のカワイイ女、これが最高である。

現住所 新潟県上越市港町 1-21-1 杉本方

(呼) 0255 (43) 1902 8:30pm迄

3, 4人宿泊可、食事付 (俺が出してやるヨ)

来月は、現場の作業員の仲間とスキーに来るよ。モチ、女人禁制ではない。

(追記)

ワンゲルで一番心に残っている山行は、巻機→谷川→三国峠の PW だなあ。

L 宇佐川(13)、SL 太田(13)、俺 (2年)、岩船、萩生田、実方、阪本 (15期1年)

10月中旬だった。力の付いた1年4人、男子パーティー。荷は 23 kg程で、当然、バンバン飛ばした。4泊。粗食だった。それが余計に、良い思い出となっている。男ばかりの、あの雰囲気、忘れ難い。

**OB 14th 鈴木道夫**

## 昭和 50 年 1 月 19 日 (日)

<鈴木道夫 かたづけなくて下山>

サア、スキーに行くぞ。小屋を少なからず乱していく事を許してください。下宿は 小屋以上に乱れているのだから、整理する気が湧かぬのです。

皆さん、元気だ!

**OB 14th 鈴木道夫**

## 昭和 50 年 2 月 8 日 (土)

<入山 (大塚 10 期一行 8 名) >

## 昭和 50 年 2 月 10 日 (月)

<入山 (狩野・西井 14 期) >

連休を利用してスキーにやってきました。社会人ともなると満員列車に揺られ、スキー場に着けばリフト乗り場の長い行列にも、じっと耐えていかなければならないのです。昨日も、今日も、震えながら順番を待っているのです。本日は、あまりの行列と雪模様の天気嫌気がさして、小屋に来てみたのですが、ここもゴミ箱の様な汚さに、腰を落ち着ける気になれず、またスキー場へ行くことにします。小屋には誰が泊まっているのでしょうか。岡田さんによると、山川さんが居るとのこと、お元氣かしら

以上 **文責 OB 狩野一子さん (14 期)**

練炭を起こして暖まっていきたいと思い、2年振りに山小屋へやってきました。カーテンが入ったんですね。でも、相変わらずの汚さ…懐かしさが一層つります。今誰か (\*10 期大塚さん御一行様だそうです) スキー場から戻ってきたようです。それでは暖かい飲み物など戴いてから、スキー場へ行くことにしましょう。少しは上達したいですからネー。

**OB 14 期 西井節子**

1975.2.10. (私の誕生日の 1 日前)

## 昭和 50 年 2 月 11 日 (火)

<下山 (大塚 10 期一行 8 名) >

2/8 からお世話になりました。妙高のゲレンデも最近混雑するようになりましたね。西武の成せる業だろうか? 大衆化されるのを嫌うのは山ヤのさもしい根性かも知れませんね。8名の Party 全員 大分うまくなりました。少々の荷なら 山へも入れそうです。

今年は温かいので 実に快適な 40 日間でした。又、来年と云わず今年も利用させてもらいたいと思います。

'75.2.11 7:50am 山の会 どべすと

それでは以下めいめいに!

滑って転んで、又転び、板を付けて滑るのが 2 回目、やっところさのボーゲンもスピードと共に去りぬで、全身真っ白の雪馬 それでも何とか滑って スキーの面白さが分かってきました。来年、又 この小屋を利用するときにはサッソーと…でも、やはりまだ 3 年早いですかね、仲々快適な小屋で、心おきなく利用させていただきました。

…関口 山の会 どべすと

2年振り、冬では5年振りだと思うが、良く整備されていて嬉しかった。今は、部外者7人と山小屋へ来た。スキーも5年前に比べるとかなり進歩したせいか、山小屋がゲレンデより非常に近く感じてしまった。山小屋へは、結局、狩野さん・西井さんと会っただけで、誰とも会えず、ましてや宿泊に来る人も居ない。スキーはホテルの方がやりやすく、楽であるが、山小屋で行う気分は、非常に大切にしたい。

ここには、会社・都会に於いて、忘れ去られているものが多く、自分自身の生活を見つめ直すのに、良い環境である。テントで生活して山に登るのを考えれば、ここは天国ではないか。これからも山小屋へ集まろう。OB諸君、でも 大変だね！（しかし山小屋へ来ない人には伝わらない矛盾）

OB10期 大塚 正夫

今から山小屋の清掃を行う。

## 昭和50年2月27日（木）

風雪

夜行（妙高5号）で来たのです。3/1には1年生が来るはずなのですが、私 3/3には卒論発表会に出席しなければなりませんので、一人で早々、ノコノコと、山小屋にやって来たのであります。積雪量に比べてラッセルは さほど無く、ゲレンデからわずか15分で着いたのであります。小屋に着いたとき、2階から入ろうと思ひ、ピッケルにスコップを取り付け、やおら その作業に取りかかったのであります。しかし、2階の窓は、何とカギがかかっているではありませんか。誰だ バカ。仕方なく1階に降りることにする。ザックを小屋と積雪の間に押し込み、落とす。次に、ステップを切って降りる。カギを開けて入る。小屋が暗いと思ひ、早速にブタピカランプを点けてみることにする・・・が、ヒドイ。ブタピカランプの命とも云うべき発光体のガラス繊維がボロボロ。入小屋の記録を見て、OB連中だ。文明も、使い方の知らない人に会うと破壊されるだけは。明かりをを取ろうと思ひ2階の窓を開けてみる。2ヶ所開いた。朝メシを食べ、ステップをもう一度丁寧に切り、イザ ゲレンデに行かん。あいにくの風雪で まず第2を滑り 次に第3、第2と滑り、サンアントンに飛び込んだ。ちっちゃい子が居ない。居るのはオバチャンだけ。ガッカリ。1時間ほどねばって、第1、杉野沢 次に第3、第2、第1、チロルへ。第1を歩き、第2、第2 山小屋 回数券パー。

レッドを飲みのみラジオを聞き聞き これはこれは久しぶりの一人寝ですね。

女、そんな胡散臭いの求めない。淳子・百恵・美代子

で充分だ。道夫さんも言ってたけど、女は軽薄なのだ。しかし道夫さんの、女に伝えるべき自分 等というのは、女とつきあう上で無用なものだ。 と思うので反対！

3年16<sup>th</sup> H.U. 植松 弘

## 昭和50年2月28日（金）

晴 and 曇 and 風雪

今日も又一人寝でゴザンス。またまたレッドのみのみ、ようやくウェーデルが完成しました。しかし、新雪に入ってやると無惨なのだ。後傾でやるとこけるのだ。スキー場は何故かガラガラだ。

執行部学年としての任も終わり、新執行部や1年を客観的、主観的、かつ無関心に見ることが出来る。今の2年、山が好きな奴 おらんなあー。今の1年、理屈ばかりや、山が好きでない奴 出て行け。理屈、文句の言う前にやってみろ、出来ないくせしてガタガタ言うな。

山好きの仲間が集まって然るべきワンゲルが、山好きな奴が居ないとすれば、ワンゲルも終わりやな。何が仲間だ、話し合いばかりの仲間、そんなのやめちまえ。話し合いだけのクラブ 作ればいい。

やめよ、やめよ こんな事バカらしい。かつてに やらせーよ。

3年16<sup>th</sup> H.U. 植松 弘

## 昭和50年3月2日（日）

晴

昨日、今日と一年生がワイワイと入小屋しました。見てびっくり、よく働くではありませんか。認識を新たにして、前言を取り消し、ここに謝罪致します。

これから私メは帰ります。妙高三号か信州6号、それが混んでいるようだったら夜行にする予定です。

今度はいつ来れるのかな。来ようと思えばいつでも来れるだろうけど、また一人寝だと いい加減イヤになっちゃうから、誰か入っているのを確認してから来ることにします。

3年16<sup>th</sup> H.U. 植松 弘

## 昭和50年3月6日（木）

23:20頃

2階の4人はもう眠ったみたい。だけど僕は、いつもの習慣で、だんだん目がさえてきました。明日から山へはいることを考えると、体力的にも、精神的にもと

でも不安…。この山行が終わってからも、医療講習会・春合宿・雪上訓練と、クラブの行事がいっぱい待っています。4月に入れば新Lが入ってきてコンパ・合宿などでとても忙しくなるでしょう。そして、あっという間に夏が来て、秋冬が過ぎれば もう4年。自分にとって、又一个の曲がり角がやってきます。特に最近考えること—それは自分と（自分にとっては、山という一つの名詞で代表される場所の）自然との関係、いったん山へ登ることが長い一生の中で、どれほどの意味があるのか？唯何となく山に惹かれて山へ来てしまう自分が情けないとか、山へ行く事は現実からの逃避であるとか—確かにそうだ！とは思いますが、また別の面で、一つのものに打ち込む素晴らしさをも感じます。ただし、本当に好きで熱中していればの話であるが。

今のワンゲルに対して、大した不満は無い。適当に自由があって、拘束があって。ある面では他にない楽しさを持っているように思う。が、しかし、大した不満がない故にクラブに対して、大した希望も無いと言える。果たしてこんな曖昧な自分が、クラブに居ていいものだろうか？こんな事を考える前に何故もっとクラブに対して積極的に働きかけなかったのだろうか、自分に問いかけても何も答えることは出来ない。ただただ 21 年間 現実に押し流されてきた自分しか見いだすことが出来ない故に…。

人間は自分の抱いていた理想が壊れてしまったとき、どのように感じ、どのように対処していくであろうか。果たして理想とは、決して実現されないものなのだろうか…。

ところで、もう夜の12時を過ぎました。とても頭の中がゴチャゴチャして、何を書こうとしたのかということも分からなくなっていました。

(2年17期 山下暁)

## 昭和50年3月7日(金)

山小屋→笹ヶ峰→十二曲り→高谷池→火打山→高谷池→黒沢池→三田原山→山小屋の予定が、池の峰の手前で道を間違えて、小屋に引き返してきた。完全なる挫折である。林道ですら膝までのラッセルで、おまけに道も2, 3回間違えてしまった。池の峰手前では、右に曲がっている筈の林道が、雪ピで埋まっていて、全然判らず、そのまま直登して、南西に下ってしまい、ルートを全く外してしまった。絶え間なく降り続く雪のせいもあったが、一寸甘く見すぎたように思う。たとえ、道を間違えずに行ったらとしても、十二曲がりまでは、とても行けないように思う。いいとこ黒沢出合が、このラッセルでは限界かも知れぬ。これが、冬山訓練並の人数であったら、大して問題にはならなかつ

たであろう。とにかく五人ぼっちの力ではとてもとても…。

山に登るために、年末に二回、春に二回、この小屋に来たが、まともに山へ登ったのは今年(1974年度)の冬山訓練の一回だけ、後は悉く挫折であった。よっぽど妙高周辺の山に嫌われているのであろう。妙高周辺の山々、いわばくびきアルプスは、スケールこそ小さいが、積雪期で比較したら八ヶ岳よりは上で、南北アルプスと変わらぬほど高い水準にランクされる山岳のように思う。とにかく、雪の量と天候の悪さには驚くばかり…。裏日本特有の暗く重厚なイメージしか与えてくれない。それ故にやりがいいのある山域でもあるかもしれない。しかしどうも12~3月は、この山域の登山には適していないと思う。あまりにも負担が大きすぎるようだ。この時期にはせいぜい、火打・三田原・妙高などのピストンに留めておき、それ以上深入りはしたくない。4月からの残雪期には天候も安定してきて、行動範囲もかなり広がるように思う。以上が冬と春における4回の入小屋から受けた印象です。まあ、嘔めば嘔むほど味の出る山域だとは言えるが、やはりスケールの点でちょっと問題があるかも知れません。

(2年17期 山下暁)

## 昭和50年3月11日(月)

3/8に三田原アタックを試みたが、またしても池の峰のちょっと先で挫折。何という不運…。途中で木村のスキーが壊れ、小屋にスキーを取り替えに行き、1時間のロス。三田原山頂から池の峰へおちる南面の尾根は、雪が多くてスキーを上げられず登頂を断念。でも3/9はルートを変えて、傾斜の緩やかな南東の尾根から南面へ回り込んで、スキーで頂上まで行けた。上は風が強く、雪は砂のようにさらさらしていた。山頂から大滑降を試みたが、皆曲がる回数よりも転ぶ回数の方が多かったみたい。登り4時間強、下り2時間弱。予定のコース(前記)よりも大分軟弱になってしまったが、とにかく山には登りました。これで1年生の二人も満足したでしょう…。僕はもう、とにかく疲れました。3日連続 5時に起きたから。3/10は雨が降ったり止んだり。皆、スキーに行かず、小屋でゴロゴロ、本を読んだりマージャンをしたり。9時頃、木村と1年二人が帰り、午後 小浜が雨の中を下の小屋から戻ってきた。その小浜も、今日の4時頃帰り、今夜は5人だけです。今、買い出しに行った4人が帰ってきました。今夜はどんな食事でしょうか？

(2年17期 山下暁)

## 昭和50年3月13日(水)

今日も又ガス。例によって中野さんだけ滑りに行った。なんと中野さんは今日も12回リフトに乗ったとのこと。これで土曜日に来てから6日間で、計72回リフトに乗ったそうである。とにかく凄いの一語に尽きる。3時半頃村山が一人でやってきた。5日間の予定だそうだが、可哀想に皆から食料を出せ出せと言われて、今日だけでチョコレート・ビスケット・フランスパン・缶詰がもう無くなってしまった。この調子では、三日で完全に無くなるだろう。今日で小屋に来てから既に八日目。今回は小屋とチロルの間を往復して、その合間に一寸滑るだけ。おかげでリフト券もまだ2枚使っていないありさま。まあ、試験の休養である。最近、山に登ることがかかったるく感じられてしょうがない。唯漫然と山に登ることがバカに見えるし疑問さえ抱く。もっとはっきりとした目的を持って山には入った方が良いのでは？でも、一つだけはっきり言えること一山は良いということだろう。何故か気が落ち着くようだ。現実からの逃避には他ならない事に違いはないが。中学・高校と6年間、クラブに居たせいか、大学に入ってからでもクラブにはいるのが当たり前のように思っただけでワンゲルに入った。クラブなしの学生生活なんて考えられなかったし、それだけクラブに定住してしまったことが、良いか悪いか知らないが、とにかく現在の自分の周りの状況は余りにも居心地が良すぎる。それだけ一層物足りなさを感じてはいる。もうキリがないからヤメル。結論は無し。

これから山へはいる人のために、私が小屋へ来てからの天候を書いておきます。

- 3月6日(木) 雪が降ったり止んだり
- 7日(金) 吹雪後曇。風強し。
- 8日(土) 快晴
- 9日(日) 快晴
- 10日(月) 雨
- 11日(火) くもり
- 12日(水) くもり時々晴、風強し。
- 13日(木) 曇後雪。

(2年17期 山下暁)

## 昭和50年3月14日(木)

朝、あまりにも寒くて、皆7時頃起きる。なんと-7℃、小屋に来てから最低である。その代わり外は久しぶりの快晴。皆、9時前にはゲレンデへ行った。その後例によって小屋の掃除をし、パッキングをしながら昼食の準備をすると もう12時。今日、中野さんが帰り、武田が池ノ平へ行ったので4人になった。明日、僕と岩田が帰るので残りは二人になってしまいそう。かわいそうに…。6日に来てからもう10日間が経ち、明日帰るのですが、もう一寸お金があれば居てもいいの

ですが…。とにかく後2750円しか無いのです。

◎3月15日以後 小屋へはいる現役部員への伝言。

1. メンツを全部持って帰ること。
2. スノースコップ(穴あき)を持って帰ってください。
3. 冬用テント、内張を乾かしてください。以上今度小屋へ来るのはたぶん5月中旬頃、それまできょうなら!

(2年17期 山下暁)

## 昭和50年3月17日(日)

午前小泉さん、萩生田さん、牛窪さん、小泉さんの家庭教師としての生徒、の4人が帰りました。残ったのは、中島さん、岩田進、村山そして昨日来た植松です。食べるのが気がかりです。

3年16<sup>th</sup> H.U. 植松 弘

## 昭和50年3月19日(火)

17日の夜行で来ました。電車はガラスキ、ボックスを独占。前日、あまり寝ていないのでグッスリ寝ようと思う間もなく、斜向かいのボックスからの視線に目を開く。「どうです、一緒に」。見れば片手にグラス、一方にはリザーブ。睡眠不足も何のその。世間話しながら4時までに1本空けてお休みなさい。妙高高原駅に着けば、わざわざ起こしに来てくれた二人に感謝しながら山小屋へ。着いて早速、マー جان始め、夜は夜でまたまたマー جان。マー جانの合間にゲレンデに行くといういたらしく。あ〜〜つかれた。

夜8時半。掃除と洗い物を済ませたところです。18日に村山が帰り、今日の昼間、上級生3人も帰ったので、今、残っているのは一人だけ、その一人も明日妙高1号で帰ります。

◎次に山小屋へ入る方へ

水がないので井戸で汲んで下さい。落ちないように。大きいヤカンに一杯だけあります。とりあえずそれを使って下さい。アルコールはウイスキーが少しだけ。使った食器は洗って帰って下さい。火の用心。

2年17<sup>th</sup> [にな] 蜷川欽也

## 昭和50年3月20日(水)

朝8時半。帰る。

2年17<sup>th</sup> [にな] 蜷川欽也

## 昭和50年5月24日(土)

雨

直江津から、三日前に買った HONDA ベンリイ CB50 で、山小屋まで来た。

直江津で曇、高田でポツリポツポツ、新井でザー、杉野沢近くで雷ゴロゴロ、雨ザーザー。

愛車があまりに可哀想。林道から小屋迄の 50m程が、岡田さん曰く、整地によって、又雨によって、ヌカルんでいて、とてもバイクで入れない。無惨にも CB50 は、雨に打たれるが儘となり、ご主人はこうして震えながらペンを握っている。サムイ…

#### OB 鈴木道夫 (14 期)

PM8:15 誰か残していつてくれたウィスキーを飲んで、ローソクに火をともし、やっと人心地がついた。ウィスキー有り難う。

雨が、小屋のトタン板を叩いている。CB50、あまりに可哀想。明日、きれいにしてやるからな。ガマンしてくれ。

前回、小屋に来たのは1月18日だから4ヶ月ぶりになる。1月に書いた自分の山小屋日記を読んだ。恥ずかしい気持ちでいっぱい。もっと丁寧に書けば、細かい点に配慮すれば、誤解されずに済んだと思われる所が多くある。けれども、あの時はあんな風に考えて、ああ言ったのだから、それはそのままにしておこう。4ヶ月の間、随分とまた、考え方も変わった。それで今回は、そんな感じで書こう。何故書くのか？という事は、述べ出すとキリがないみたいだし、今の俺にとってはどうでも良いから、そんなことにお構いなく、ただただ今の俺の考え方、感じ方を書こう。

前回の山小屋日記を読んで感じるのは、”随分気負っているナア”ということ。男は俺しか居ない、両親を放り出して直江津で暮らしていくこと、大学卒ばかり居る会社の寮（そこは管理職が度々やって来て、大学卒との意志交流、もっとハッキリ言うと上意下達の場合としての意味を持つ）を、おん出で下宿暮らしをしていること、地方出身の作業員との人間的な接触を試み続けること etc などの状況下で、自分の生き方を通して行くには、ある程度の気負いが必然であったのであろう。

が、それにしても気負い過ぎていた。当然、何かのショックで自分の生き方が揺さぶられて、支えきれなくなると、そういう気負いが大きいほど、そのダメージは大きくひびく。4ヶ月の間にあった事とは、そういうこと。でもやっと立ち直ってきた。教訓として得たのは”焦らずに、気負い過ぎずに、ゆっくりとやってゆこう”ということだし、”しかし、確実に前へ進もう”ということ。少々言っていることがキザ過ぎる感じ。勘弁してもらおう。

落ち着いて考えてみて、高校生頃や、大学2、3年の頃より、毎日が楽しい。納得できる。高校時代は殆

ど自我というものが判っていないくて、何となく真面目に生きていただけ。大学2、3年の頃は、ようやく主体的に生きることに意味に気付いて、焦りに近い気持ちでモヤモヤした感じだった。大学1年は、何も解っていないかったけど、ひたすら山に登っていたので、これは別格として、まあ「生きていた」と甘い評価を与えてもよからう。近頃の毎日は楽しい。そういうこと。

☆2/27 の山小屋日記に、女の子の話があったので、一言（以上 になるかな）述べます。

俺は「女は軽薄だ」と言ったつもりは無い。ただ多くの女の人はモロイ面があるとか、精神的なモノが不十分だとは言った。女の人の中にも、素晴らしい人間は居るだろう。又、現在不十分な人でも今後、充実していく人も居るだろう。更に言えば、男にも情けない者が多い。男の迫力みたいなのが、もう少し在ったっていいと思う。「女は軽薄だ」と20歳前後の男が、言い捨てるとしたら、その男も軽薄なのだろう。しかし、こういう言い方はできよう。「A子は、あの時点において、あの件については軽薄だった」と。限定した言い方だ。近頃、一つのことを黒とか白とか断定してしまう事が、果たして出来るのか？と疑っている。人間は又、他の多くの事も、二元論で片づくほど、単純に出来ては居ない。なのに、ある時、ある事だけをもってして、全てが解ったつもりで、言い切ってしまうというのは、やはり誤っている。もっと留保を与えるべきだ。もっと可能性を残しておくべきだ。こんな事を言うのも、俺は俺なりに、ほんの少しだけけど、苦い体験（女の子に限らず、女の子なんてよく知らないし）をしたからなのだ。

☆2/28 の山小屋日記について

「山が好きでたまらないような、いわゆる山キチ以外、ワンゲルを出て行け」と主張してるらしい。ワンゲルって、山を狂気じみて登っていればそれで充分なのか？ 違うだろ。学生なのだから、勉強ばっかり狂気じみてやっていけば充分なのか、これも違う。商社員は、ひたすら買い占め、売り惜しみの為に、仕事すれば充分なのか？ これまた違う。俺の言おうとしている事が、解ってもらえるだろうか、少し不安だけど。人間が理性を捨てて、己の好き嫌いだけで判断していくとしたら、これは恐ろしいことだ。

俺自身の事から話していこう。二年生にとき、執行部方針を考えている時、つくづく思った。ワンゲルってスッキリしないクラブだなあって、どうして、わざわざ無理して執行部方針なんてものをデッチ上げなけりゃいけないのだった。山登りが好きで山へ行く。それだけで充分じゃないかって。が、現在の俺はそうは思っていない。丁寧に説明するのにも、疲れたので、工学部にある友垣を読んで下さい。少し言っておくとしたら、そうだな。嫌いなことを避けてばかりいたら、とても大事なものを見落とす事だと思う。ただし、2

月 28 日の彼氏も良いことを言っている。「話し合いばっかりの奴等はヤメチマエ」と言っている。話し合っていて、何故やるのか。それは、自分はこんな風に考えるし、だからこんな風に行動したのだけど、それで良いのかって、そういう思考と行動の連携がある時、そういう仲間での話し合いは有意義だ。というのは、次なる思考や行動の糧となるから。全く生産的でない(→行動しない)事を前提とした、単なるマスターベーションのおしゃべりには、価値があるのだろうか。言うなれば、俺のこの山小屋日記はマスターベーションか？少し気恥ずかしいが、否 と答えられる。17 期の山下(2月 28 日の彼氏ではない)、本当に真面目であることがわかる。しかし、真面目として存在していることだけでは十分でない。今後の山下がどのようになっていくのか、期待らしきもので、見つめたいと思います。

☆女の子の話をしようか。これは楽しいから。2 月中旬～5 月初旬の間、仕事で大学に戻り実験をしていた。その期間にワングルの下級生に言われたのだが、”道夫さんは女性蔑視ですね” 1 月の山小屋日記を読んだらしい。別に女の子を見下しているつもりは無かったのだけど、先日 加納(15 期、3 年の初めで退部)にいみじくもズバリ言われたが”道夫さんはエリートなんですヨ” という一言。正直に認めます。客観的に見て、決してエリートではないし、自分でもそれは知っているつもりだった。しかし、そういう意識は過去 20 年以上の間、徐々に体質的なもの迄になっていたんだ。俺の今後のテーマみたいなものは、そういう体質的なエリート意識を消し去ることだと思っている。

横道にそれてしまった。大学での仕事も所期の目的を果たして、直江津に帰る時、女の子に上野駅まで見送ってもらった。勿論ワングルとは無縁の女の子。とてもいい子なのだヨ。まあ、それはともかくとして、女の子の優しさって、素晴らしい。男には無い優しさを持っている。分かる人には分かるだろう。分からない人には残念でした。今後に期待をかけましょう。女の子から優しさを除いてしまったら、後は何てツマラナイものになることか。ちょっと言い過ぎ。今日は女の子の事、書く気がしない。人に言わないで、ひとり、ニンマリしていたい気持。皆さん、残念でした。

☆先日、ラジオでこんな話を聞いた。インタビューだ。  
A.”優しい男の人と、男らしい(たくましい)男の人と、どちらが好きですか”  
B.(若い女の子)”どちらも兼ね備えた男の人”  
実にそうなのだ。とかく「どちらが」という設問には、つまり選択枝が、二つしか無いと、無理してひとつを選び取ってしまう。というのは、受験時代、解らない問題があっても、でたらめだって良い、どっちか一つ

を選べって教えられたから。悲しい習性だな。しかし、そうじゃない。答えは選ぶのではなく、自ら引き出すのだ。今、そういう生き方をしたいと思っ暮らしています。今夜はこれで終わり。

OB 鈴木道夫(14 期) 10:10pm

## 昭和 50 年 5 月 25 日(日)

快晴 7:30am

これからバイクで笹ヶ峰へ行くつもり。10 時に関山駅で現場の人と落ち合っ、竹の子を採りに関山の奥に入る。竹の子汁ってうまいよ。小屋の周りがある笹藪に竹の子、随分あるようだ。豚肉・ミソ・サバの水煮(缶詰)・それに竹の子…実にうまい。

じゃ、サヨナラ。小屋はなるべく整理しておこうと、努力したつもりだけど、やはり少々乱れたかしらん。

## 昭和 50 年 6 月 14 日(土)

都合で小屋に立ち寄りしました。夜中、一人で書く山小屋日記は、白日に下で読むと、恥ずかしくなって仕方がない。独善が過ぎるようだ。近頃読んだ本のうち、良かったもの

「三太郎の日記」「されどわれらが日々」「月と 6 ペンス」 鈴木道夫

2、3 年前の山小屋日記に、稗田さんの文章を見つけて読みました。言っていることが、よく分かります。稗田さんって、いい人ですね。自分のことを考えると、どうして もっと素直に、自然に振る舞えないのかとハガユイ。気負ってしまったたり、人をケシカケたり、知ったかぶりして批評めいた事を言ったり。どだい、そんなだいたいそれた人間ではないのに。もっと優しく暮らしてゆけたなら。やはり、俺も男だからなのかな。つい背伸びする。人をケシカケるのは、結局自分自身をケシカケている訳だな。そうでもしないと、弱気になって登れる山すら挫折してしまうから。

OB 鈴木道夫(14 期)

## 昭和 50 年 6 月 21 日(土)

管理人 岡田悟

自己の造林小屋の屋根葺き替へ工事に立ち寄る。今年 OB の方々の御協力に依り 小屋の火災保険に加入して戴き本当に責任者として喜んで居る。雨戸をあけて 梅雨のしめった空気を追払ふ。室内の掃除 甚だ不良 よく整頓する様に。

天候はよく晴れてとても山々の緑が美しい。

1:30pm

## 昭和 50 年 6 月 29 日 (日)

小屋合宿 下見のため、27日入小屋。小屋中カビだらけ。天気 曇り。

28日 火打登頂を目指したが、時間切れで 高谷池ヒュッテで断念。富士見平付近から上は雪だらけ。スキーも可?

29日 12時 出小屋 にな

Member ニナ川♂・小河♀ (17期)、井口 (18期)、板倉♀・白川♂ (19期)

3年 17th 蜷川欽也

## 昭和 50 年 8 月 9 日 (土)

8/9 と書いて驚いてしまう。6月末から誰も山小屋には来ていないのかな。

土曜日の夕方、会社 (工場) の帰りがけに、直江津港に寄ってみた。小さなイカ釣り船やら、貨物船やらが泊まっていて、それに夕陽の紅、空の色、海の輝き…急に山小屋に来てみたくなった訳。オートバイで、今回は 2hr 近くかかった。50cc では、エンジンが焼けてしまう。直江津山岳会に入った。いつか山で逢うかもしれない。そしたら、重たいザックを背負って、ウンウン唸っているのが俺だから、レモンの一切れでも、可愛想だと思って、分けてやって下さいね。

## 昭和 50 年 8 月 10 日 (日)

たった一人での山小屋って、割といい。毎日のザツツイタ生活、絡み合った人間関係、その中で自己主張、妥協、…そんな暮らしばかりだと、とても疲れる。ホッとするような、優しい心になれるような時が欲しくなる。

今日は日曜日で、早めに直江津に帰って、久しぶりに本を読みたい。じゃ、サヨナラ

OB 鈴木道夫 (14期)

## 昭和 50 年 8 月 13 日 (水)

去年の夏以来一年振りです。

それにしても夏休みだというのに、小屋に入ったのは道夫君一人だけなのですか!

今回は念願カナって、車で初めてやって来ました。お盆なので覚悟はしてきたのですが、大したことも無かったようです。不況のせいでしょうか。

最近ではワンゲルにもあまり顔を出さず、山にも行かず、

車ばかり乗っている私ですが、それでも、この山小屋はいつでも忘れることが無かったのです。

OB 12th 山下久男

## 昭和 50 年 8 月 14 日 (木)

昨夜は尻切れで寝てしまいました。なにしろ、昨日は朝4時頃から昼まで仕事、その後すぐ出発したのですが、着いたのは夜10時頃、もう眠くて眠くて。でも、今回は今までの私と違ひまして、女性などを連れてきまして。小屋は相変わらずですが、汚れがひどいようですね。特にカビが。20日頃から 大勢入ると言うことですので、せいぜいキレイにしてやって下さい。今夜は岡田サン宅にやっかいになるつもり。

OB 12th 山下久男

## 昭和 50 年 8 月 27 日 (水)

12:00 頃入小屋。私達 裏岩手は各メンバー バラバラになった。予定より1日早く小屋に着くと、中央の連中がゴローッと寝ていた。小屋は予想通り (つまり、キタナイ ということ)。外はガスって居て涼しいを通り越して寒いくらい。盛岡から私と\*さんは角館で温泉に浸かり、秋田回りで直江津から妙高高原に着いたのが 夜の2:00。即シュラフ出して寝た。ゲーッスリ! なにしろ、お金無しのビンボー旅だから、余った固いフランスパンをかじり、クチャクチャのアメをなめなめ、前に座ったおばあさんのおむすびを ジト一ツと横目で眺め、空腹に耐えて眠ったのでした。

角館の女性は飛びきり美人と聞いたから、目を凝らしてよく見てたら、やっぱり美しいー これホントよ。ワンゲルの男共も、目の保養のために一度ごらん遊ばせ。も一つとも 私達が居るから そんな必要無いでしょうが。直江津で真夜中に食べた駅弁・・・

寒々とした小屋の中で、ひたすらマージャンに打ち興じる塩川くん、あの叫びはー! キチガイ。

ラジオを聞いていると、何だか自分の部屋に居るみたい。

みそ

## 昭和 50 年 8 月 29 日 (金)

みんなよく働いてくれて、仕事も無事終了。夜にはファイヤー焚いて 大コンパ。死んだ人数名。

2年ワタベ (18期) 渡部孝

## 昭和 50 年 8 月 30 日 (土)

妙高・火打等 約数名出発。又、数名帰省。残りの数名で岡田さんの手伝い。小屋に来て初めて汗をかいた人数名。午後から数名で大々マージャン大会。僕は初の国士無双でニコニコでした。

ワタベ 18期 次期小屋委員長 リーチの人→決定！  
775/12/29

苗名小屋から火打山へ

記録 上野

苗名小屋-1:20-笹ヶ峰牧場付近-0:40-黒沢出合-0:50-富士見平-0:30-高谷池ヒュッテ-0:10-天狗の庭-0:30-雷鳥棲息地という看板のあるところ-0:20-火打山頂-0:45-高谷池ヒュッテ-0:25-富士見平-0:35-黒沢出合-0:30-笹ヶ峰牧場-1:00?-小屋《7:35》

以上の記録は、8/30(土)に、前夜以来のコンパのアルコールと、睡眠不足のたまった、弱体メンズの残した記録である。

## 昭和 50 年 8 月 31 日 (日)

冬山訓練 下見のため、火打山ピストンに向かう。

木村・つばい・植草・塩川・石井・岡本・南・徳しげ  
A.M. 7:30

P.M. 6:00~7:00 全員無事帰る。壺井、石井、岡本、南、徳しげの5名は ヒッチで即小屋に着いたが、残りの3人は汗だくで小屋に倒れ込む。

1年 19th 徳茂

## 昭和 50 年 9 月 1 日 (月)

初めて小屋に来て 5泊もしてしまった。合宿中はワイワイ騒がしかったが、昨日はすごく静かだった。(マージャンが少々うるさかったけど) 南君と二人で 素晴らしい灰皿を作っておいたので、使って。コンパでは1年はすごく乱れてしまった。めちゃくちゃだわ。今日、高松の実家へ帰ります。今日 小屋に残るのは、蜷川君、市野さん、木村さんの3人のみ。がんばって。

1年 (19th とくしげ) 徳茂

## 昭和 50 年 9 月 2 日 (火)

ゼミ合宿のため、残りの仕事は市のと木村に任せて、帰ります。

8:00 3年 17th にな 蜷川欽也

## 昭和 50 年 9 月 3 日 (水)

今日の午前 10 時 35 分のバスで 木村が帰った。残ったのは私だけとなってしまった。誰か話し相手が居ないととても淋しい。男のくせにと、自分自身苦笑いをしている。夜になると頭が働かない。頭が、何も考えようとしていないし、私自身の心は 頭と別個の所へ行っている。多少 厭世的な気分になろうと思って、いや、厭世的な気分になったので、小屋に人が居なくなった頃にやって来た。私は、8月31日午後4時20分頃にこの小屋に来た。

渡部・植草・塩川・壺井(18期)、南・徳しげ・岡本・石井(重)(19期)。以上8名が9月1日に帰り、蜷川が9月2日に帰った。昨夜、木村と女の子の話をした。とても良かった。何が良かったかと言うと、別の考え方を知ったからである。女の子の気持ちなんて分からない。分からないから 独り相撲をとる。そして 丸鼻の 口の大きいピエロになる。恋愛などと言うモノは、そんなものかも知れないと、私自身は思っている。恋愛に技術的なカケヒキ等、要らぬと思っていた。ただ私の感情のままに行動することを良しとしてきた。好きなら好きと、何の思惑もなく言うことが大切であると思ってきた。しかし、私がそのように言うことによって、相手は迷惑するのである。実際、当たり前のことではあるが、でも私は、自分自身が存在している事として、あるイメージを ここ3年間ほど持っている。それは私自身の心のイメージとして、直線的に生きることである。この 直線的 という言葉の裏には何もない。単に直線的と言うことである。素朴に素朴に…。素朴に佇む一個の人間を想像していたい。話を元に戻すが、カケヒキは実生活に於いても、小説の世界に於いても、恋愛におけるカケヒキは有るようだ。

途中ではあるが、書くのはもうヤメル。書けば書くほど白々しく聞こえる。私は私なりに一つの恋愛論を持っている。それをこれから書こうとしていたが、それは止めにする。自分の感情を、うまく文章に書けぬから。文章に書こうとすること自体、自分を知ってもらいたいという、何だかみっともない(?)事をしている様で。その善し悪しは別として、うっちゃっておく。こんな事が話したくなったらどうぞ、私とお話ししましょう。いや別に、無理して私は話したくないが…。ねずみ(白と茶)がカーテンでじゃれています。

(3年 17期 市の典明)

## 昭和 50 年 9 月 4 日 (木)

井戸のフタも直しました。全食器も、カマも洗いました。小屋の掃除もしました。カビの生えていた流しもきれいにしました。便所もきれいにしました(一部)。

明日帰ろかな。

### (3年17期 市の典明)

紅葉の笹ヶ峰を見に来ました。あいにく異常残暑の為か、低いところは例年より遅れているようですが、火打山周辺は今が盛り、素晴らしい紅葉でした。それと、初雪の積もった北アルプスの連山。火打にはまだ雪は来ていませんが、ここも後数日で、冬の第一陣がやって来そうです。実は一昨日から来ているのですが、色々忙しく(?)、この日記も、今日帰る日になって初めて書いているです。

現在山小屋には7名(榊原⑪、山下⑫、海保⑬、小沢⑭、鈴木⑮、小泉⑯、萩生田⑰)が居ます。もっともっと集まる予定だったのですが、ちょっと少ないようです。それに現役が一人も、この時期に入っていないのも淋しい。今年は、あまり、この小屋も使われていないようです。現役もOBも、もっともっと使って欲しいものです。

登山禁止は周知のことと思いますが、火打周辺に行く場合は、気をつけて下さい。昨日、焼が小噴火を起こしました。その後も続いているようです。くれぐれも御用心、御用心。

OB 12期 山下久男

## 昭和50年10月12日(日)

### 鈴木記

2ヶ月ぶりに山小屋に来た。懐かしい顔が揃っていて、昨夜は(正確には今日)3時近くまでおしゃべりした。何か書きたい気持はするのだが、とって特に書く内容も無い。僕の日常を紹介するに留めよう。

仕事 生産現場に居て、今新しい設備を入れるので忙しい。チョットした図面を書いたり、チョットした化工計算をしたり、工事担当者や設計、下請けのオヤジさん等と打ち合わせをしたり。とにかく走り回っている。

組合 青年婦人部というのがあって(ウチは総評系)、その常任幹事。原発建設阻止とか反戦etcなどの話をしたり、プリントを作ったり。

山岳会 ワイワイガヤガヤと楽しくやっている。社会人のサークルってこういうものなのだろう。互いに相手の生活を尊重しあって、山登りを楽しんでいる。

その他現場の人の娘さんの勉強をみたりして(酒・飯付き)もいる。直江津で生まれ育ち、そして、これからも暮らしていく人と、色々な話をするのは楽しいことだ。

毎日がどんどん過ぎ去ってゆく。川崎の両親を捨て置いて、何やら決断して、直江津に来た訳だけど、その時意図した暮らしと現在のそれは、どう繋がっている

のかな。今の暮らしぶりでいいのかな。よくわからぬ。何か忘れ物があるような気もする。

## 昭和50年10月16日(木)

1年振りに山小屋に来ました。一人でどこか山へ行きたかったのですが、妹とここへ来る羽目になってしまいました。誰か居るかなと思っていましたが、誰も居らず、妹と二人では話すことも無く、退屈になりそうです。酒一升買ってきたので、一人で二日間かけて飲んでみます。

4年16<sup>th</sup>三好正幸

## 昭和50年10月18日(土)

一人では興も湧かず、酒も飲めなかった。さりとて、何をするかと言えば何も無い。火打には雪が5cm程積もっていました。書きたい事もたくさんあるのだけれど、こうやってノートに書く気は起こらない。雨の音がするだけです。

4年16<sup>th</sup>三好正幸

## 昭和 50 年 11 月 22 日 (土)

一年振り、正確には一年三ヶ月ぶりに山小屋にやって来ました。この前はOB会で山小屋に来る事になっていたけれど、仕事が忙しく、出張があったりして、とうとう動く気がなくなり、止めてしまいました。感情の起伏も激しく、いよいよ私も終わりに近づいたというような気がしてきました。今回は出発前日に俄に決心し、家で寝ていたいと愚図つく体にムチを打って、夜行に乗って来ました。

明日は左藤一行三名と一緒に妙高に登ります。

OB12th 山川隆

## 昭和 50 年 11 月 23 日 (日)

外は雪

何故か又、山小屋にいます。すごくすごく感激しています。外は雪です。既に6, 7cm積もりました。明日の朝は20~30cmにはなるでしょう。何か書きたいことはいっぱいあります。でも、何から書いていいのか、今は非常にしあわせ。…午前1時です。今も外は驟々と降り積もっています。雪が見たくて小屋に来たのですが、杉野沢では雨、多少がっかりして登ってきたのですが、夜になると同時に落ちてきました。この年になっても雪という言葉を知ると、身体の中でソワソワ落ち着かない所がある様です。

OB12th 山下久男

## 昭和 50 年 11 月 24 日 (月)

○時数十分

ほぼ2年振りです。山小屋に来た。今年は昨年より雪が少ないせいか、小屋の周りは無雪。もともと今、雪がしんしんと降って、榎本が車で帰れるかどうか心配している。昨日は山川・榎本と部外者2名と妙高登頂。カナメの辺りから根雪になっていた。夕食は榎本の妹の結婚式の出し物が多く、山小屋では珍しく豊富である。久しぶりの山小屋はガスのランプが明るく、大分住み良くなり、居心地がよい。本日帰らなければならないとは、少々口惜しい気がする。まあ、来月下旬にも来る予定ですのでよろしく。

OB12th (左トウ) 左藤清

午前1時半 /既に積雪10cm、今、屋根に積もった雪が滑り落ちた音がしました。もう冬です。人を寄せ付けぬ、厳しい冬です。何もかもが白いものの中に埋まってしまう季節、純白の世界、それが人にと

っては魅力なのでしょうか。僕も27になりました。この年になって、雪だ、純白だ、などと心ときめかせる年ではないと思うのですが、仕方ありません。若さだ、ロマンチストだなどと言ってくれれば嬉しいのですが、反面虚しい気持ちにおそわれることも確かです。今、目の前に小さな時計があります。ある人に借りてきたものです。僕にとっては大事な品物です。今、痛切に感じます。白雪を見ていると、心の中まできれいに洗い流してくれたのか、すごく純粋な気持ちになってくるようです。明日は横浜にいる僕ですが、今まで何となく過ごしてきた日々が、もったいなく、これからは、と力が入ります。読んでいる人には、でたらめな文章かもしれませんが、あくまで、日誌です。許して下さい。

OB12th 山下久男

08:30

遅い起床から1時間半。20cm位だった雪がもう30cmを超えました。到着した22日は快晴で、妙高山が前日に雪化粧したばかり。小屋の周りでは晩秋の林の中を散歩することが出来ました。

昨日、23日は、妙高山登山。濃霧の中を登り詰めた山頂では青空が待っていました。雪がそんなに多くなく、アイゼン無しでも登れたので、初心者の中には好都合でした。そして昨夜からの雪。一面の銀世界。唐松の枝に積もった雪は、雪国育ちの私も感嘆するほどです。二泊だけの短期間の滞在で、これだけ変化に富んだ山を経験でき、本当に幸運でした。小屋は素晴らしいし(来る前に左藤君から、良いところだとは聞いていたのですが、これほどとは思いませんでした。) 食事も豪華。予想に反して七人もの大人数(?)になり、とにかく楽しい三日間でした。私は部外者ですが、今度はまた別の季節にでも左藤君に連れてきて貰おうと思います。

電波監理局 小林

10:20

榎本の車を山荘笹ヶ峰まで降ろして、戻ってきたところです。雪は相当に深く、全部除雪しなければならないかとも思ったが、動き出すとさすがに前輪駆動で、バンパーが雪に埋まるくらいの道を、何とか下まで着きました。山荘笹ヶ峰まで行くとジープがあり、轍もはっきり付いていたので、その先は安心と思って、車を置いて戻りました。帰る途中、我々3人(榎本、山下、山川)を追いかけて笹ヶ峰方面に走っていく車が一台ありました。こんな雪でも、けっこう走るものだと思いを新たにしました。因みに今、雪は30余センチ積もっています。一休みしている間に、左藤君一行は初滑りに行きました。

久しぶりの山小屋なのだけれど、あまり、久しぶりに来たような気がしません。ここでコタツにあたって、何の違和感もおぼえない。カーテンをさげたり、上を塞いだりして、暮らしやすくなっているけれど、山小屋というのは、全然変わらないような気がする。今年は是非、冬の間にもまた来たいと思っています。

OB12th 山川隆

## 昭和50年12月29日(月)

今日、冬山訓練21名 元気に小屋を出ていきました。小生、22日の夜行で上野を発ち、23,24日とスキー講習会の始まる25日午後までスキーの練習を元気にやっていたのです。が…25日午後3時頃右足首、右足膝を捻挫。今日まで小屋から一歩も出ずに、じっとがまんしているのです。スキーが出来ないのは、まだ我慢ができます。けれど、無い金をはたいて装備をそろえ、寒空の下で冬山の為だと我慢して交通量調査などというバイトを2日間やって…授業には出なくても meeting には参加して、冬山の本を買って勉強して、天気図も取って……。這いつくばって行けるものなら行きたかった。昨日の夜、みんながパッキングしているとき、何と足の怨めしかったことか。みんなが出ていった後のひっそりした小屋に居ると気が滅入ってくる。こんな事、いくら書いてみても仕方がないのだ。今はもう、唯みんなが元気で帰ってくる事を。

今回のスキー講習会は事故が多かった。昨日は井上と弓削が熱を出してスノーボードで下って行った。井上も今頃は横浜で残念がっているのだろうか。また午後には、村山さんが足を骨折。僕の捻挫なんて忘れられた存在だ。

今日は一年の女の子も3人残っているけど、明日からはOB連に囲まれて小屋に残んなきゃ。

1年徳茂(19th)

## 昭和50年12月30日(火)

26日に本多 小泉と一緒に来た。スキー講習会のコーチをしたが、一年がうまいのにはビックリ。昨日は死んでしまい(酒で)、本日は生まれ変わった。

OB15th うしくぼ牛窪肖

昨夜 小屋に居た人は 12期榎本さん・左藤さん、15期中島さん・うしくぼさん・小泉さん・大島さん・萩生田さん、16期 植松さん、17期 穴山さん、

19期 織内・脇・日比・白川と僕。夜は酒を飲んで歌を歌ってにぎやかでした。おかげで寂しい夜を迎えずに済みました。今朝、穴山さんと織内、日比が帰って行きました。その後15期の谷島さんがやってきました。今、11時前。みんな滑りに行って、今小屋に残っているのは、昨夜の影響で眠そうにしている白川、脇と、もう今日で5日間も小屋から出てない僕の3人のみ。すごく静かです。脇がシュラブに入って寝ています。白川も横になって眠そうにしています。一人起きて何もする事がないと、もう……。冬山へ行った連中、今頃どこ歩いて居るんだらうとふと考えてしまい、もうまいった参った。

現在 7:30頃。僕以外の11人は掃除をしたり、メンツ洗いをしています。悪いなあと思いつつも、動けぬ身ゆえ、許してください。でも、こうしていると、根が生えてきてド怠慢になりそうです。

1年(19th トク) 徳茂

## 昭和50年12月31日(水)

今日で1975年も終わりです。新雪が50cm程積もっているそうです。冬山の連中、ラッセルで大変だろうなあと思いつつ、コタツに入ってボケッとしています。今日、15期の6人と白川、脇が帰りました。今夜は4人だけになりそうです。今、12時前、もう2時間程一人で小屋にいることになります。色々な事を考えます。女の子のこと、クラブのこと、山のこと…ちょっと歩く練習をしてみようかなあ。

1年(19th トク) 徳茂

3月以来の入小屋でした。28日までは年末の仕事に追われて、やっと解放されての入小屋です。

今回は、一人で冬山に行こうと思って入ったのですが、軟弱にも取りやめ、スキーに、それも新雪スキーに打ち込んで、来シーズンの飛躍を夢見ている。

昨日新雪が50cm積もりました。

古い小屋ノートを見返してみると、バカな事を書いている。今は成長したのか、酒量が足りないのか、そんな気持になれそうもありません。

(4年16th 植松弘)

追記 この12月、やっと現役からOBとなりました。諸先輩よろしく！←もっとうまい字を書きたいなあ。

続追記 徳繁談「一年の女の子三人が残ったのはひとえに、私の魅力です。特に織内は僕につき合っただけでネンザしたのだ。」 一同 「よく言うよ」

今、23時30分頃です。今年も終わりです。生まれ

て初めて新しい年を自宅外で迎えることになりそうです。今日、3時頃 4期の斉藤(伸)さんと、その知人二人が入小屋。7人でお酒を飲みました。ソバも食べました。明日帰ろうと思います。スキーは嫌なのでワカンで帰る予定です。二日に高松の自宅に帰るつもりです。本当なら、冬山から帰ってきて、4, 5日頃までスキーをやって、それから帰る予定でした。そして、成人式まで向こうに居るつもりでした。でも、大幅に予定変更です。10日頃に横浜に帰ることになりそうです。成人式には出席するのを止めようかと思っています。今、紅白歌合戦が終わろうとしています。シロが勝った。おめでとう。

今夜は男だけでした。静かな夜です。外に出ると、満天星だらけです。自称ロマンチストの僕にとって、今年の年末はいろいろでした。こんな過ごし方も又良いものなのでしょう。もう、冬山へ行けなかった事も、何とかあきらめがつきそうです。これもOBの方々のおかげです。

1年(19th トク) 徳茂

## 昭和51年1月1日(木)

昭和51年1月1日 午前零時

\*\*\*\*\* 謹賀新年 \*\*\*\*\*

ラジオからは除夜の鐘の音、年越しそばも食べたし、何とか昭和50年を越した感じ。「あなたにとって昭和50年はどういう年でしたか、そして昭和51年はどういう年でありたいと願いますか。」月並み過ぎて答える気もしないけど、まだまだ新しいことをやりたい気もするし、いろいろやりすぎているので、少し整理しなくちゃと思ったりしている。まあ、新年と改まる必要も無いけれど、日々新たな気持を抱いて生きてゆきたいものだ。

今回は2年振りの 正月の入小屋、今までとガラリとイメージチェンジして(した積もり?)、2m05cmの wood のスキーを 185cmのグラスのスキーに、ヒモ式ダブルのスキー靴をノルディカのプラスチックに、そして、ヤッケ、オーバースボン、ロングスパッツをキルティング+スキーパンツに替えて来てみた。やはり、短いスキーは曲がりやすい感じ。大島、萩生田には遠く及ばないけれど、そのうちうまくなるぞ! 何とかインチキシュテムが出来るようになった。

最近思うこと、去年、一昨年と失恋したけど、そのたびに一つずつ、何かを得た気がする。一度に一人の異性がある程度深く知り得る事は素晴らしい事だ

な。この調子でいくと、50までに後24回も失恋できて、24もりこうになるよ。ちょっと道夫みたいになってきたので、これで止めよう。明日の夜行で帰るけど、また来ます。

(1/1 00:10 OB12期 左藤 記)

おめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。まずは、年頭のご挨拶を!

小屋で正月を迎えるのは、卒業以来四年振りであります。今年は、仕事も忙しくなり、アレコレしているうちに年末となりました。そのため、正月は寝正月にしようかと思っているところに、左藤より山小屋へスキーに行こうと誘いがかかり、来た次第です。小屋には15期の懐かしい面々が居ました。皆、スキーは上達しました。私など相変わらずで、遙かに及びません。彼等は今朝帰りましたが、午後、4期の斉藤さんが初めて小屋にいらっしゃいました。第2リフト終点から小屋迄、悪戦苦闘、1時間ほどかかったそうですが、ご苦労様です。私は明日、左藤と帰る予定です。もう皆、寝てしまいました。時間は午前0時40分。私もおやすみなさい!

OB 12期 榎本吉夫

新年おめでとうございます。今日で、捻挫して1週間になります。ヨチヨチ歩きが何とか出来るようになりましたので、今日 帰ることにします。冬山の人達が帰ってくるまで待とうかとも思いましたが、今 みんなと会うと、この3日間程の僕の気持ちが崩れそうなので。

今、小屋に一人です。斉藤さん一行は池の峰の方へ、他の3人はスキーへ出かけています。

今年の3月で20才になります。去年は、今までの人生において、いろんな事の最も多かった年のような気がします。皆さんの大好きな、女の子に関する事だけでも、変化の激しい年でした。どういう訳か、失恋という言葉に無関係な年でした。それだけに、色々悩み深き事も多く、今の心境は複雑です。今年、何をやるかという目標みたいなものは、今はありません。ただガムシャラに全てのことにアタックしたいと思います。女の子に対してしかり、山に対して、ワングルに対して、そして、その他諸々のことに対して。

※最後に、冬山訓練から帰ってくる人へお願い。

市野さん シールとワカンのヒモ、川俣さん エアマット、渡部さん 電球、向井さん 目出帽、伊達さん アイゼンバンド、作田さん ポリタン、南君 ツェルト、中島君 手袋、しげお君 オーバ`シューズ、イソオ君 アイゼンバンドと磁

石、岡本くん ラジオ、以上僕の装備を持っている人は、忘れずに持って帰って下さい。でないと言っ青になってしまいます。

1年 (19th トク) 徳茂 10:00am

11時頃、斉藤さん一行が帰って来ました。外に出してみました。とても良い天気です。空には雲一つありません。遠くの山がすごくきれいです。ああ、やっぱり冬山訓練に行きたかったなあ。トランシーバーの交信が、まだ一度も成功していないので、少々気になるけれど、全員火打の頂に立てたことと思います。上級生の人をお願いします。春にはどこかへ連れてって下さい。僕も、僕なりにいろいろと努力しますから。

今、植松さん、左藤さんが帰ってきました。僕はそろそろ帰る用意をしようと思います。

今日、冬山の人が帰ってこなかったら、植松さん一人です。僕が何もしなかったから、仕事が沢山残っています。よろしくをお願いします。

1年 (19th トク) 徳茂 12:10am

1/1 12:00

あけましておめでとうございます。今日は大変良い天気。初日の出を拝み、付近を散策しました。天狗から焼岳、越後の山々まで、日本全国を見渡すことが出来ました。初めて山小屋に来ましたが、たった1日で、良いところを見ることが出来たし、12期のOBの方、現役の方などにお世話になることも出来、今年はずいているという実感です。特製ドテラを一着、寄付しましたので、お使い下さい。皆さん今年も元気で。

OB4期 斉藤伸一

追伸 サントリーの大瓶に入っているのは、紛れもなく、特製(各種ブレンド)の果実酒で、毒ではありません。

現在 13:30 頃。植松さんが掃除をしています。少しだけ手伝いました。そろそろ小屋ともお別れです。10日間居たのに、そんなに長く感じません。これが、一人だったら どうだったか。もうすぐ出発です。今度は春に来ると思います。さようなら

1年 (19th トク) トクシゲ コウイチ 徳茂

今日は素晴らしい快晴、何年振りかで初日の出を見、朝早く小屋を出てスキー場へ。昨日のアナウンスでは、今日はリフトが7時半から動くとのことだったが、係りの人が深酒で起きなかったのか、8時に第2ゲレンデへ出て誰も居ず、リフトも第1しか動いていなかった。それも我々が第2の乗り場へ着く

頃に動き出し、快調。さすが元旦だけあって、出足が早く、10時頃には混み出し、軽い昼食をとって小屋に戻り、オーバーシューズと輪かんを借りて仙人池まで行って来た。仙人池の辺りからは遠く越後の山々まで見渡せ、言うこと無し。兎に角今日は、充実していた。今、小屋には植松と私の二人、榎本は一足先に行って滑るとのこと。全くよく頑張るヨ！私も後20分程で、この小屋ともお別れ。今日は植松独りかもわからない。 Good by

OB12th (左トウ) 左藤清

5:35p.m

新しい年です。しかし、これといって心を新たにしないで、これからの月日を過ごすといった感慨はありません。この1年間、何をしてきたかと言えば、ワンゲルと卒研のための実験です。そしてこの先、山はやるだろうし、大学院に残るので 実験もするでしょう。だから生活の基盤は変わりそうもありません。本日は、冬山訓練の連中も、帰って来そうもない。一人きりです。淋しいです。ほんとに淋しいです。涙が出てきそう。

6:05pm

メシができました。おかかご飯にカップスープです。ラジオでは盛んに”あけましておめでとうございます”を連発しています。それでは暇に任せて去年1年間を振り返って、私の卒研の内容をご紹介しますことにします。

題目：高度さらし粉の自然発火の危険性

緒言：高度さらし粉は次亜塩素酸カルシウム  $\text{Ca}(\text{ClO})_2$  を主成分とするもので、用途としては、上下水道、プールの殺菌、消毒、漂白剤等がある。世界中で用いられている高度さらし粉が遺伝子とした出火事例も報告されているにも拘わらず、その自然発火の危険性に関する研究は為されていない。そこで、本研究は、その危険性の臨界条件を求めよう行われた。…。

6:25pm→ 8:20pm

酒を飲むことにする。男が独りで酒を飲めば出る話の一つ＝女のことである。私も今年3月で23才になる。しかしながら、まだまだ子供だなと感じる。考えが単純である。深く考えていない。それでもある程度の経験を生かした考えもあるが…。女の子、女、女性はやはり、カワイイだけではダメであるという、今までの経験から、そう結論づける。この、私の考えは多分変わらないだろう。外面は生まれつきのみである。内面について言えば、自分自身の生活態度によって決まってくる様に思われる。しかし、どうこうすれば、内面が磨かれるかということは、私には分からない。だが、一日一日を噛みしめ

て生きれば、何かをしなければ、しっかりしなくては、等々の考えが生まれてくるのでは無いだろうか。去年を振り返ると、私自身、実験と家庭教師、ワンゲルに追われていたのがよく分かる。その一日一日は充実していない訳ではないけれど、自分を考える時間を作らなかったように思う。こんな自分を差し置いて、女の子にどうのこうの言えん気もするけど、言わせてもらおうど「甘えを抑えて下さい」皆素晴らしい女の子なんだけど、甘え過ぎると思うんだ。同じ代の村田が私に話してくれた事があった。「女の子は自分に関係あることだけしか興味ない。何も考えてなんかいない」

4年 16th 植松弘

## 昭和 51年 1月 2日 (金)

1/2 8:00am

風が強い。途中で眠たくなって寝てしまった。赤倉中途まで行くことにする。

9:05 出小屋

11:00 1840 ピーク

12:10 小屋

1840 ピーク近くは風が相当強い。ラッセルはさほど無く、表面はややくラスト⇒ブレーカブル。1840 ピークははい松が出ていた。全体にブッシュが多く、帰りにスキーがブッシュに引っかかりやすい。

昨日の続きを書くことにする。

村田が言ったことで、私は女性心理をある程度理解できるような気がする。

この山小屋日記には、あまり女性は書いていないようである。書いてあっても、別にどうでもいいこと(そういう為に、小屋日記は有るような気もするが)で、男の事は書いていない。後で後悔する様な事になるのは、最初から書かないでおいた方が良く、という計算が働くのかな。男は、女の子のほんの小さな心遣いに、コロリと参るのです。

4年 16th 植松弘

5:10pm 交信出来た。現在は池の峰に居るといふ。やはり、500mW では、池の峰を越えて交信する事は無理のようだ。

6:20 冬山訓練より 21 名全員無事帰着す。

初日 快晴の空の下を黒沢出合まで、のんびり歩く。

2日目 十二曲りをラッセルし高谷池まで行くが、吹雪のためヒュッテが発見できず、テント設営。

3日目 吹雪の為、停滞。

4日目 快晴強風 絶好のアタックチャンス。天狗

の庭を横切り火打山の肩まで到達したが、風が強く、登頂を断念し、引き返す。

5日目 ヤブの十二曲りを滑降し、夕方暗くなって小屋に着く。

(3年 17th 木村善行記)

## 昭和 51年 1月 3日 (土)

黒縁のサングラスと黒いサイフを無くしました。見つけた人は、磯尾まで届けてください。

足かけ三年振りの山小屋になるのかもしれない。昨年 29 日夜行で、天狗尾根から鹿島鍾へ登り、食糧・日程・天候に恵まれ、最高の元日を過ごせ、気分良く妙高の駅で S.V をして、今朝 9:00 入小屋です。指先を寒さで少しおかしくしているので、字が汚くてすみません。ここで天狗尾根の宣伝を少し書く事にします。(コースタイムも)

★ 30日 鹿島 7:20-8:00 大谷原 8:20-10:00 荒沢出合-12:00△C1 (1600m)

★ 31日 △C18:00-12:30△C2 (1900m)

○ 1日 C2△5:00-10:00 鹿島鍾 12:00-16:00 C2△

★→① 2日 C2△8:00-9:30 荒沢出合 10:00-12:00 爺が岳スキー場

まさに天狗尾根は冬山の圧巻であった。荒沢出合から取り付き、第1ワーロアール(1900m)迄はラッセルがひどく、今更ながら体力の無さを痛感したが、第1ワーロアール、第2ワーロアール、第1岩峰はアルペン的な雰囲気充分で、ザイルが何本も投げられた。稜線直下の岩場は順番待ちで、落ちたらカリ裡へ500mも一直線で、アプザイレンの時、思わず身震いしてしまう。とにかく指をやられたので、書くのがつらいので終わりにする。無事、下山できた事を感謝！今年は怪我のないように！

(OB 14th つるおか 鶴岡一)

## 昭和 51年 1月 4日 (日)

1/4 1:10pm 晴れ

今、小屋に一人きりで居ます。川俣・向井・南は帰り、鶴岡さんは井上のザックを横浜へ送るべく下へ。岩船さん、高橋さんはスキーをしにグレンデへ行った。昨日、風呂に入り下ったが、渡部の骨折で時間切れ…。2, 3日前までは、身体全体がかゆくてかゆくて。でも、今では余り気にならないみたい。何と汚らしい事だ。冬山訓練もやっと終わり、もう

すぐ執行部交代です。この1年間、副将として何もしなかった、何も出来なかった私ですが、とにかく無事に終わって良かったと、今では思っています。短かったような、長かったようなこの一年間でした。色々な事を経験し、山へも随分行ったし…。

(3年17期 山下暁)

6:00pm

骨折した渡部を自宅まで送り届けて、今日又小屋に帰ってきた。渡部は意外と元気でした。トイレには苦勞するみたいです。試験があるので、早く横浜へ帰りたいと言っていました。元住吉から常盤台までは随分あるし、大変のようです。私も、骨を折らない内に帰ろうかと思っています。1/8(木)の1時限の情報処理概論の宿題を、まだやっていないので、7日の夕方までに帰宅したいのですが、宿題は解けそうもないので同じ研究室の奴に聞かなくてはならないから、6日に帰ろうかな、年賀状も気になるな。

4年16th 植松弘

そうだ、正月映画「ジョーズ」の前売り券が、ロッテの景品か何かで当たったのを、妹がくれたけど、あの映画は女の子と一緒に見に行った方が良いというウワサなので、誰か誘って行こう。以上、私の初夢で～す。

## 昭和51年1月5日(月)

7:05am

東京の、今日の最低気温8℃、札幌でも4℃だそう。小屋に居てもとても暖かい。雪が無くならなければ良いが…。

(OB 12th 山下久男)

昨日、ほぼ1年振りに入小屋しました。午後から笹ヶ峰の入口までノンビリとシールを付け、行ってきました。池の峰を越え、グルグル林道が回り込みながら下った所で、春のような陽差しを浴びて一服(但しタバコは吸わない)して来ました。焼・金山…乙妻、高妻、黒姫が一望でき、後には三田原、妙高のピーク。全く春のように風もなく、雲も殆どなく、それに人間も見えず、雪で覆われている為もあるでしょうか、人工的なものは何も確認できず、素晴らしいひとときを過ごしてきました。

それからほぼ24時間後の現在まで、小屋から小キジ以外は出ず、ただ横になったり、ボケーとしたまま週刊誌を読んだり、山小屋日記を読んだり、とても素晴らしい休養を送っています。

去年は末まで、ギリギリまで仕事(?)をして、年始は7日まで休みを取りました。正月は家で、日頃食べられない物をガツガツ食べ過ぎた為か、その上、殆ど身体を動かす機会も無かった、食欲が全く無かったのが、山小屋へ来てようやく腹が減り、早く晩飯が食いたい。

まだ書きたいことは沢山あるのですが暗くなったのでヤメ。

OB15期 岩フネ芳人

## 昭和51年1月6日(火)

9:00 起床、これから下山します。昨夜来の雪が1m弱程 積もっています。これから杉野沢まで十分に雪を堪能するつもりです。シールを着けたし、静かな夜長を楽しみ、又現役の方々の充分なおもてなしを受け、大いに満足しています。これで明日、心おきなく瀬戸内海へ行けます。そして、日本一の一次産業の為に頑張るゾー

OB15期 岩フネ芳人

3:35 p.m.

9時起床。練炭を買いに杉野沢まで岩船さん、蛭川と降りる。昨日からの雪が40cm程積もり、第2ゲレンデまで全く滑らず、ラッセルし通し。朝食も取らずに飛び出してきたので腹に力が入らず大変疲れた。でもグリーンロッジでは岩船さんのおごりで、ビール、豚ロース肉串焼き、コーヒーと豪華な朝食兼昼食をとり、まあまあのところ。11:20のバスで岩船さんは帰り、蛭川と二人で買い出しをし、五八木荘に、いろいろお世話になったお礼に、角を持っていくと、お茶、みかん、お菓子などをご馳走になり、暖かいコタツで1時間ほど過ごす。今日は何とついていること。蛭川は妙高3号で帰るので、私が練炭をキスリングに入れて小屋迄ボッカ。雪は相変わらずで第2リフトの途中の頃には全身が真っ白。第2から小屋迄スキーを履いても、膝上までのラッセル。おまけに15kgの重荷(軽い筈なのですが、何せ練炭14個なので30kg位に感じられました)で小屋迄40分かかってしまった。12月27日に入小屋して以来今日で11日目。またこの正月も家に居らず山で過ごす事になってしまったが、いつもの事なのであまりどうということもない。が、いつも3が日迄には帰っていたが、今年は6日になっても未だ小屋に居ます。横浜が非常に懐かしく感じられます。正月も6日になるとゲレンデはとても空いています。でも、もう滑りには行かない積もり。27日以来リフトには17回乗りました。でも、その内ま

ともに滑ったのは数回だけで、後は病人を降ろしたり、買い出しに行ったりですが、これ以上滑ると骨折しそうで恐ろしい…。今年は事故が多く、骨折2名、捻挫2名、風邪2名。もうこれ以上は勘弁勘弁。今のところ明日の妙高3号か夜行で帰るつもりです。また3月の初めに来る予定。その時は笹ヶ峰位迄もう一度行ってみたいなあ…

(3年17th 山下暁)

追記: ラジオの天気予報で、北日本の日本海側で今日から明日にかけて大雪が降ると言っています。山岳地帯では50cmから1m程積もるそうです。明日はどうなる事やら。

## 昭和51年1月7日(水)

5日に入小屋した小河、井口、山下の友達3人、そして山下、私と全員下山致します。小屋も掃除して整理されてスッキリしています。妙高3号です。年末に入小屋して10日目、何となく過ごした日々でも、いろいろな事がありました。楽しい山小屋でした。

4年16th 植松弘

1:10pm

一昨日からの雪もようやく峠を越して、今では丁度青空も望まれるようになり、そんなに苦労せずに帰れそうです。井口、小河と私の友達3人は、ザックを下に置いて滑るべく、12:30頃には出て行き、今、小屋には植松さんと私の二人だけ。スキー講習会の時とはうって変わって、綺麗になった小屋を見ると、何だか帰りたくなってしまいそう…。又これから暫くの間、都会の混雑の中に自分の身を置かなければならないと思うとゾーッとします。確かに東京や横浜等の大都市は便利です。お金を出せば何でも手に入ります。家では黙っていても飯が食べます。でもあまりの便利さも、人間本来の姿を覆い隠してしまっている感じ。この小屋に来ると日常生活の全てを自分たちの手でしなければならぬので、とても大変です。でも私には何故か、こういった生活が合っているように思います。普段は都会の中に居て、たまにこういう所へ来るからかも知れません。昨年の夏、私は北海道のある牧場に3週間程実習(アルバイトみたいなもの)に行きました。網走からオホーツク海沿いに100km程北の、紋別郡雄武町という所で、海から3km位入った所にその牧場があります。草地面積は60ha、乳牛70頭という、その辺りではかなり大きな牧場だそうです。朝5時起床で牛を牛舎に入れ、餌をやり乳を搾って外へ出し、牛舎

の掃除をして8時頃朝食。その後は夕方の乳搾りまで、冬の為の牧草を倉庫に積んだり、畑を耕したり雑草を刈ったり、正に目の回る忙しさ。雨が降ると搾乳以外のことは出来ないで、天気の良い日には夜の9、10時頃まで仕事をします。でもこんなに働いても経営はとても苦しいそうです。メーカーから原乳11あたり100円で買い叩かれていて、本当に甘い事は言ってられません。自分では、とても良い経験をしたと、今ながら判ってきたところです。

(3年17th 山下暁)

今2時、これから帰ります。さようなら!

## 昭和51年2月8日(日)

昨日 山小屋入りをもくろんだが果たせず、今、やっと着く。

杉野沢を出たのが4:30pm 第1リフトまでは乗れたが、第2は既に終了していた。トコトコ歩いて、第2の終点まで来た。そこからグレンデスキー(シール無し)でラッセルしたが、6:30pmになってやっと、1/3ラッセル出来ただけ。あと200m以上あった。最悪の装備だったのと、岡田さんが「鈴木さん、ひとり?この前の大雪で、上はひどいよ。遭難しないようにね。明日は何時に降りてくる?」

ソウナンという言葉で弱気となって、引返す。早稲田に小屋に泊まった。1年生が7、8人と2-3年の女性が4人。飯付、ウイスキー付で歓待された。

<早稲田ワングルの雰囲気寸評>

- ・ 家族的な感じ。これは良い意味での。
- ・ 女性の上級生に、しっかりした人(神林)が居て、ウチの女子部員と少し差があるようだ。
- ・ その他、愉快的な雰囲気はウチと同じ。

昨夜は大変世話になったので、早稲田の人に逢ったら宜しく伝えて下さい。兄弟心中を歌ったら好評でしたよ。

昨日覚えた名前

3年 神林

2年 寺島(?)

1年 小橋(女性)、ノタマウチ(俗称)、吉野、東、山田、向後、太田

水上勉の「越後つづいし親不知」を読んだことがありますか。あの話の中で出てくる親不知の石灰石鉱山というのは、ウチの(信越化学)ヤマです。2年ほど前閉山しましたが。チョット面白かったので、ツイ書きました。

外は良く晴れて暖かい。小屋の内は寒くてたまりません。スキーを楽しんで帰ります。 バイバイ

### OB 鈴木道夫 (14 期)

#### おぐち

今日は早起きをして、久し振りに、床を押入の中に入れて、いろんな物を引っ張り出して、パッキングをして、寮を勇んで出てきました。

## 昭和 51 年 2 月 9 日 (月)

#### 6:00pm おぐち

昨日は小屋日記の途中でウトウトしてきたので寝てしまった。昨日は寮を昼前に出て、途中で同じ勤めの人に会って、少し遅れて 1:45 上諏訪発の急行に乗った。妙高高原駅到着 5:45、早く着いた方だ。とにかく乗り継ぎが多く、結構時間がかかる。駅前のそば屋さんで食事にする。バスの時刻を見に行くと 7:10。未だ 1 時間以上あるのでやはり歩くことにする。もう何回目になるのかな。今日は、荷が特に重い。歩くのはいい。小屋へ着く迄が最高なのだ。杉野沢の灯りが見えたところで、ジープが乗って行けというので、カンタンに乗る。なかなかいい人達で、菓子を貰う。岡田さんの家に寄る。久し振りだ。おじさんと究(きわむ)さんが お茶でも と、言ってくれたが、今日に内に小屋に着きたいと言って辞退した。もう 7:40。ナイターで杉野沢の林間コースのリフトが動いているとのこと。究さんに、乗り場まで車で送ってもら。ミチオが来ていた事を知る。連絡したのだが、あの下宿はいつも出ないのだ。とにかく行き違いとなる。林間コースのリフトを降りて歩き始める。思ったより雪は深い。それでも早稲田の小屋の所で 9:15。しかしそれからが大変だった。別れるときに究さんが、早稲田の小屋で泊めてもらいなさいと言った訳が、後になって分かった。靴だけで歩くと腰の辺りまで潜る。ワカンをつけて歩き始めるがなかなか稼げない。星はキラキラ輝いて、月もボンヤリしているのに、風がきつい。途中で一度、パンの食事にする。あせっても仕方がない。スキーに履き替える。風のために手が痛い。雪が腐ったみたいになっている為に、トレース(きつと、ミチオ君のものであろう)の跡は、返って歩きづらい。(せっかくのトレースを申し訳無い)。とにかく小屋着 11:05pm

小屋で気付いた点

1. 天井が張ってある。大変良い。しかし、あれも堅い板に出来ないのかな。金の面かな。夏の事かな。

2. ランプ。 これまた大変良い!

3. カーテン 良い、もう少し工夫の余地もあると思う。しかし、お前ヤレ と言われると困るので、大変良い。

4. ねずみくん 甚だ健在。夜の間に菓子を食われた。

5. コンロ 自動点火

6. 書こうと思って忘れた。

とにかく、だんだん良くなる。

今日は 9:00 起床。よく眠れた。10:00 渋谷の右岸を登る。頑張ったので、地図で判断するに 1900m 付近と思われる。頂上まで行けないのは残念だが、まあ 10:00 に出たのでは無理というものである。いつものように記念にそこで(ジョンベン)する? しかし自然はいいものだ。勿論、今住んでいるところも、海拔 1000m 近く、人里離れた所なのだが、やはり小屋の辺りはいい。白と茶と緑、そして空の青。自由だ! 歩ける。

4:30 小屋に戻る。小屋の屋根の雪を下ろす(少し)。一 汗かいて、屋根から飛び降りたら、顔中雪だらけになってしまった。今、食事が済んだところ。

#### 8:00pm

特に、何もすることも無いので徒然に書いてみよう。今、山下君(17 才かな)の日記を読んで、僕も 2 年生の夏に行った北海道のアルバイトを懐かしく思い出しています。朝 5:00 から夜 9:00 までの、あの仕事は、「仕事」と言うことを考えるとき、一つのいいケースです。あ、その後、野付半島を行った時、食堂で聞いた南沙織の「17 才」の良かったこと、あれ以来ファンです!

少し固く…

今、僕自身、自分の仕事は恵まれていると思います。自分のやりたい部署につけた訳ですから。自分のやりたい事と、仕事がある程度一致すると、仕事は或る意味で遊びなのです。ですから、残業も、あまり苦になりません(単純な意味で)。勿論問題は、本当にどの程度自分の側に取り込んでいるかということです。とにかく、月並みになるけど、いつも自分の考えと位置を厳しく検証していかねばと思うのです。

本当に静かです。外も今日は平穏なようです。

小屋はいいですね。そしてワンゲルはいいですね。学生の時ワンゲルをやった良かったよ。勿論他のものをやっていたら、それもそれなりに良かったろうが、とにかく、いろんな事をやること。何かに打ち込むこと。とにかく 人間、友達、これが一番だと思う。少しくらい意見が、いや完全に違っても、それでも信頼できる友。先輩。

今は何となく満ち足りた気分です。

この間追コンに出て皆さん元気そうで安心です。それにみんな芸達者で もう死にそうです。特に蝮川君とターザン（本名は忘れた、許せ）三ノ塔へ行けなかったのは残念だけど仕方無し。

山下さん、小泉君 3/20、21は八ヶ岳行きましょう。太田さん、5月、連れてって下さい。桜井さん（11期）が12/27に結婚して今札幌に住んでいるんですね。

14期情報

14期女性トリオ全員ゴールイン！

曾根原さん 昨年9月現在 東海村に住いする。狩野さん 昨年12月、西井さん 2週間前（1/25）。

OBの皆さん（現役の皆さん）

いろんな情報は、知った人が事前に（勿論本人の迷惑も一応考えて）多くの人に知らせましょう！

OB 14th 小口雄平

## 昭和51年2月10日（水）

今日は7:00に起きる。実は恥ずかしい話なのですが、小屋へ入るとき途中で眼鏡を無くしてしまったのです。4年生の時など1年間に3つも。今の眼鏡も、まだ作って4ヶ月位なのです。一昨日、途中で気付いたのですが、引き返す気にもなれず、昨日の朝も見に行っただのですが、もう、トレースさえハッキリしない為、諦めていたのです。ところが今朝は、一念発起、どこで無くしたのかをじっくり考え、その結果は次頁の図に示す通りです。つまり、A、B、Cの付近という事です。早速スコップを持って出かけたわけですが、でも、トレースも殆ど見分けがつかない位ですので、殆ど途方に暮れます。それでもまず、A地点、だいたい2.5m×2.5m、深さ1m位\*

OB 14th 小口雄平

## 昭和51年3月18日（木）

17thの木村さん、穴山さん、菱沼さん、それに18thの私 の一行四人は、本日、三田原山登頂を目指しましたが、雪がひどく腐っていて（ビショビショの状態）、シールが殆ど利かず、急斜面は全てエッジをかけて登る有様で、途中（池の峰へと派生している尾根の更に東〔右？〕側の尾根の1700～1800m付近）で挫折致しました。と書くと、あたかも雪のコンディションが悪いために挫折したかのように聞こえますが、本当は違うのです。皆（except me）、途中で、三田原に登るのがカッタークだったのです。雪質が悪い為、1700m?地点でスキーデポ（信じら

れないような話ですが）の後、ツボ足でピークを目指したのですが、ピークの辺りはガスっていた為、頂上に立っても北アルプスや赤い中国は見えそうもなかったの、三人は急に駄々をこね出し、俄然トップを独走する私と距離にして100mも遅れをとってしまい、私を手こずらせたのです。私一人「どうしても三田原に登るのだ」と頑張って主張したのですが、彼等は「上に登っても、何も見えなきゃつまらない」と、東京タワーに登るのと同じ次元の発想で私を丸め込もうとしたのです。しかし結局は、三田原挫折を主張した彼等に、私は簡単に丸め込まれてしまったのだからお恥ずかしい。というのも、菱沼さんが食糧の全ての権限を持っていて、たった一つのドライフルーツの為に、私は「尻尾を振って」彼等と一緒に挫折をする羽目に陥ってしまったのです。あの時はよほど飢えていたのでしょうか。人間の意志なんて弱いものだと、しみじみ感じた一日でした。

2年18th 上野

## 昭和51年3月19日（土）

昨日、無事卒業して、本日山小屋の住人となった。木村、上野、穴山、菱沼の誰かの友達は、私の入小屋と入れ替わり下山した。三田原・赤倉に登ろうと思っているが、きっと登らない。

OB 16th 植松

岩田（16th）と同じ研究室の院生 高橋さん、平野さんも入小屋。夜も深まる。雪が降って新雪となる。明日が楽しみだ。

## 昭和51年3月20日（日）

下山者：織内・田本・井上・中島・富田・南・武藤・西田。

5～10cm位の積雪。

午前中は晴れていたが、午後は雲に覆われ、雪がバンバン降ってくる。私メは寒いので3時には小屋に戻った。風が強かった。

## 昭和51年3月21日（月）

8:30起床

風強く、三田原方面は雲隠れ、だが、ゲレンデは晴れ。新雪、更に510cm。今日はスキーはやらない。

昨日ものすごく混んでリフト待ちがひどかった。

## 昭和 51 年 3 月 22 日 (火)

本多です。入小屋。

## 昭和 51 年 3 月 24 日 (木)

午前 2 時頃、オールナイトニッポン やってる。私も植松同様卒業・就職しました。いよいよ恐怖のサラリーマン！頑張るヨ！スキーも楽しかったり、飽きたり。あまり上達しない。植松の新雪の滑りは見事！蜷川はヘタ！その友達は上手。ポールを立てて少し遊んだ。

このノートの一冊はじめに書いて、つまり、一昨年の 11 月（これはオレが文房具屋で買ったはず）。今初めて全部ここまで読んだ。皆真面目なんで、もう何も口を差し挟むスキ無し。しかしいいのだ。たまにはいい加減な人間が居ても、皆と同じ事して喜んで、人の目気にして、つまらないことして、でもそれも仲々いいのだ。だめな人間万歳！もう小屋へ来ないかもしれないし、来るかもしれない。また来たときには、知った人が何人居るやら、本当に 4 年間を過ごしたのです。まあ、スキーが安く出来て、仕事がいっぱいあって、寒くて、少しだけ楽しい、そんな山小屋でした。何か、昔ほど山小屋が好きではないという気もする。まあ皆様お元気で！それから、私の入った小さな会社を倒産させないように、OBの方々はよろしく。(現役の方も将来は社会人でしょうから、そちらも宜しく)。本当に GOOD-by

**OB16 期 K.Honnda 本多 賢**

皆寝ておりますが、寝付けませんので、お茶を沸かし始めました。3 月初めに北海道へ行って来て、スキーも少ししたので、その話を少々。ニセコやテイネはこれからも行けるかと思い、北の峰スキー場と小樽へ行ったのです。旅行について、何か初めて旅行をしまして、あまり面白くなかったのであります。それで稚内も根室も、札幌も網走も浜頓別も、何もあまり見物せずに、だから益々つまらなく、何か金を捨ててみたいで、本当にアホらしくなってきて、でも 2 週 間も行ってた。北海道は海まで雪が来ていて、それは非常に不思議な気がした。雪は山に降ると思ってたから（東京でも振るけど）、それから真っ平らなところに雪が降り（これも前と同じ理由）、湖も畑も野原も、皆白一色で真っ平ら。これは印象的。それから網走の寿司屋で、生まれて初めてカウ

ンターに座り、六つぐらい握りを食べて、お茶飲んで 2000 円！アいい！値段聞いて腹一杯！唯、スキーだけは面白かった。ここで北の峰スキー場を紹介、何しろ山小屋へスキーに来る貧乏人は、本州のスキー場さえ知らないだろうからナ。ザマミロ！ここは、北海道で一番設備が整い、リフトが 6 本位、場所は旭川から 1 時間ほどの富良野からバス 10 分位、北の峰から芦別岳へ登山可。真正面が十勝で、大雪の旭岳や日高連峰も見える。景色は良い。斜面は苗場の急なランセ程ではないが、上はかなり急。深雪も滑れる。何しろオリンピックの練習用となった所で、今年は今日本アルペンが開かれ、来年はワールドカップ開催予定、プリンスホテルもある。リフト券は 8 回 1000 円、1 日 1800 円。ここで 3 泊した。古東\*館 2 食 2800 円、本当に最高、木炭風ストーブで、とにかく北海道風、最高、食事よし、富良野にある、おすすめ。

あと、小樽。ここはコース、行った日は日曜で、海が見える、実に素晴らしいスキー場、但し風が強くてリフト動かず、小学生のアルペン大会をやっている、全く滑らず。リフト 2 本、しかし全部の斜面が最大 35-40° 平均 20° の急斜面。テラテラのアイスパーン、深いコブ多数。70, 90m ジャンプ台あり、唯一の回り道も決して緩斜面ではない。しかし、小学生のうまいこと、6 年生の大回転を見ていたが、多分、ワングルの現役は誰も太刀打ちできないであろう。付近の殆どの小学生全員が参加の模様。本当に北海道のガキはうまい。とにかく、ゴーグルをしているときは、大人に見えて（ものすごくうまい）、ゴーグルをとるとタダのガキ。信じられなかった。本当にビックリガックリ、ア然。だのに、何故日本はスキーが弱いのでしょうか。世界の人は本当に……。ただ、北海道の人はスキーを楽しむのが、何か、こちらで言うと、ちょっとしたハイキングの様で、つまり日曜にちょっと早起きして、スキーウェアを着たままスキーを持って、ちょっと電車に乗って、滑って、そしてその日の内に帰る。（これは東京のスキーヤーと比較した時の事であるが）そして先程の小学生のアルペン大会も、ちょっとした運動会みたいで、家族が皆、ちょっとバスに乗ってスキー場まで、子供の弁当を持って、お父さんはカメラを持って息子に声援を送る。そして、どこそこの\*\*君はタイムは何秒で、うちの子は転んだとか、\*男君はうまかったとか……。本当にかっこを見るみたいに、アルペンレースを見ているのが印象的であった。

それから最後に「北海道でスカイメイトでスキーをしよう」「粉雪の北海道へあなたも！」とか宣伝されているが、私の知りうる限り、北海道のスキ

一場の雪が素晴らしいとは思えなかった。(もっとも、北海道も今年は異常気象で、暖冬だそうだが)つまり、妙高国際でも、粉雪の時は、あるいは冬山訓練など山岳スキーをやった時には、絶対に北海道並か、あるいはそれ以上のコンディションだと思う。これは、先程のコマーシャルに乗せられて、必死にアルバイトをして、スキーを北海道でやろうかと思っている人がケチなワングルの方々にもし居たら、その必要は全くないのではないかという忠告の積もりで書いたのであります。失礼!

## 昭和 51 年 3 月 25 日 (金)

今日も、小屋を出る最後の一人になった。昨日の昼間、四人が帰ってからは小屋の中もひっそりとして、一段と寒くなった。3季用のシュラフでは、とても眠れない。部外者のT君は毛布6枚と布団2枚で、寒いと言いつつも鼻を掻いていた。

簡単に掃除と洗い物をしたが、みんなが汚すだけ汚して行ったので、あまりきれいにはならない。午後1時10分 小屋を出る。

3年17th に 蜷川欽也

## 昭和 51 年 7 月 25 日 (日)

夏休みに入ったから、誰か居るかナ?と思って寄ってみた、やはり…ネズ公すら居ない。

- ・仕事を持ってから、ワングルともご無沙汰している。それは、今現在との係わりに全力投球したいと思っていた(今もそうだ)ので、学生時代の山の友は、或いは楽しい思い出は、あの時のもので、懐かしく振り返っても仕方ない、と思って過ごしてきた。
- ・けれども、友は友、逢いたくはある。
- ・今年5月、植松のリーダーで、穂高で現役が死んだと、7月頃知った。驚いた。14期の川端の死をスタートにして、山川さん等と共に、少しずつ冬山を始めてきて、6年目にまた死人を出してしまった。
- ・事故の原因は、現役が十分に議論したのだろうかから、OBの私が とかく言うつもりはありません。
- ・ところが、今度は7月に、大島誠が、谷川一ノ倉で死んだ。これも、直接知る事は出来ず、大学の研究室の連中が、会社に測定の時、来たので知った。
- ・大島とは本当によく山へ行ったので、言葉も出ない。
- ・鶴岡も気の毒だ。
- ・人生は長いし、人の考え方、やりたいことetc 全てが時と共に変わって行く。「死」「山で死ぬこ

と」やはり無意味だと思う。もったいない死に方だと思う。

・盛夏の風が、木々を吹き渡り、ザーと葉の擦れる音がしている。野鳥も鳴いている。生きてゆくことは楽しい事ようだ。

・直江津に居るので、飲みに来ると良い。

・0255(43)3711を回すと、会社の交換嬢が出る。鈴木道夫と言えば、つないで呉れます。

OB 14th 鈴木 道夫

## 昭和 51 年 8 月 2 日 (月)

やっと昨日、山小屋合宿(76年度)が終わった。今年は二次練成合宿に続けて行ったため、一年生は非常に疲れただろう。私は去年に引き続き、キジ汲みの仕事をした。チーフと名は付いていても「くみ」と「運び」の実践をした。来年は20期の洪沢がチーフとなって、頑張ってくれるであろう。すっからかんに汲み取った筈なのに、次の日に或る理由でフタを開けた時、その量に驚いた。皆さん、それだけ利用しているのなら、雑巾とか懐中電灯等を落とさぬよう大切に使いましょう。

二次練成で、上級生として初めて山行らしい山行をして、メンバーに対してこれ程気を遣うとは思わなかった。今回のコースは、一度行ったことがあるので、余裕を持てると思ったのに、精神的疲労が大きかったような気がする。(ちょっと生意気かも?) 大学に入って初めて山をやる人間は、一年生の最初の頃は、我々の時と同じく、二年生に大きな信頼を寄せて(三年生に対してはもっと大きな)いるのだろう。大きな責任を感じてしまう。

2年19期 白川正

やっと、この小屋日誌に登場できる立場になりました。今まで、傍観者の立場であった自分が、少し変な感じがします。今のクラブでの自分の存在感、宙に浮いた浮き草のような感じがします。火打にピストンして後立が見えました。去年の夏はあいつと苦労して登った思い出が、次々と浮かんできました。そんな自分を思うと自己嫌悪を感じるような気もします。このクラブの、混沌とした灰汁の強さが好きであったのに、いつの間にか変わってしまった、知らぬ間に。

昨日は仕事が早く終わったので、みんなで笹ヶ峰に行きました。仙人池で下着1枚で泳ぎ、とっても気持ち良かった。モヤがかかって神秘的な感じがして良かった。みんなも是非一度、泳ぎに行こう。夜はコンパとゲームで暮れようとしています。笑いの渦の中で、十分バカにされました。キタナイものの

代名詞に僕の名前が登場するようになってしまった僕のを、本当に分かってくれる人が居たらいいな、チョット淋しい。ほんとは淋しがりやで見栄を張っているだけなのに。

s 51. 8. 2. N. 西田 雅典(20期)?

20期小屋合宿の総括

**委員長 渡部孝 (18期)**

例年より期間を短くし、集中的に仕事を進めたのが成功し、1. 5日で予定の仕事が完了した。遊んでいる人間が一人も居なかったのが良かった。コンパは、事故のこともあって、ささやかに抑えてみた。しかし、お酒は少なくとも、歌あり、ギターあり、余興ありで、仲々良かった。全体的に見て例年より良い合宿が出来たと自負している。

これを以て、日記 N o 10 は完了します。